

J-BIM 施工図CAD 2015

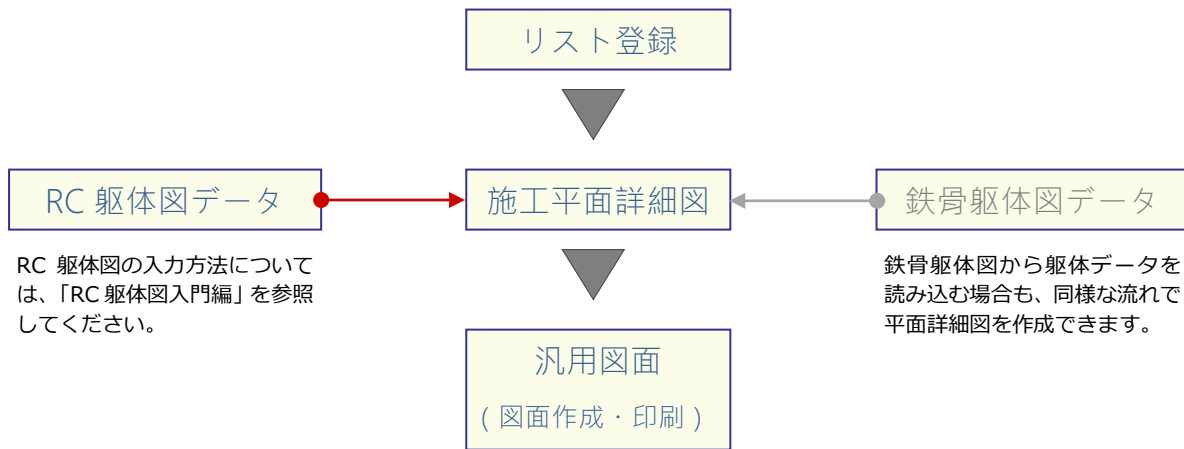
平面詳細図入門編

目次

1 部材リストを登録する	3	4 図面を作成する	44
1-1 符号初期値の確認	3	4-1 初期設定の確認	44
1-2 部材リストの登録	4	4-2 図面作成の流れ	45
2 平面詳細図 1 階を入力する	6	4-3 断面展開図の作成	45
2-1 平面詳細図 1 階を開く	6	4-4 図面の作成（平面詳細図）	47
2-2 初期設定の確認・変更	7	4-5 図面の作成（断面展開図）	48
2-3 RC 躯体図データの読み込み	10	4-6 図面の編集	50
2-4 作図芯の入力	11	4-7 データの保存	53
2-5 部屋の入力	13	4-8 図面の印刷	54
2-6 LGS 壁の自動配置	15		
2-7 建具の入力	17		
2-8 階段の属性変更	18		
2-9 ポーチの入力	19		
2-10 一括作成の実行	21		
2-11 部品の入力	23		
2-12 記号・寸法の編集	27		
2-13 内部仕上表の作成	30		
2-14 断面展開図の確認	31		
3 平面詳細図 2~4 階を入力する	32		
3-1 2 階の入力	32		
3-2 3 階の入力	39		
3-3 4 階の入力	40		

1 部材リストを登録する

施工平面詳細図では、RC 躯体図や鉄骨躯体図から躯体データを読み込んで、平面詳細図を作成することができます。ここでは、RC 躯体図の躯体データを参照して、施工平面詳細図を作成する方法を解説します。



1-1 符号初期値の確認

リスト登録を起動して、構造部材や壁開口の符号を確認しましょう。

- 1 [処理選択] ダイアログで「リスト登録」をダブルクリックします。
[部材リスト選択] ダイアログが開きます。

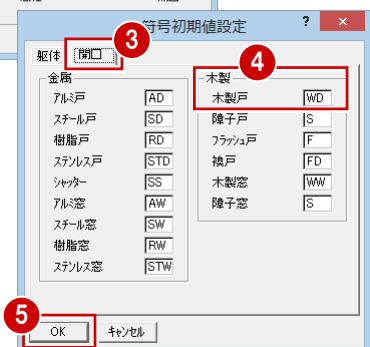


- 2 [符号初期値] をクリックします。



- 3 [開口] タブをクリックして、壁開口の符号を確認します。
- 4 木製戸の符号が「WD」であることを確認します。
- 5 [OK] をクリックします。

登録した部材リストはマスタに書き込んで、別の物件で使用することもできます。詳しくは「RC 躯体図 Q&A 編」の「Q2 部材リストを別の物件で利用するには」を参照してください。



[部材リスト選択] ダイアログに戻ります。

1-2 部材リストの登録

使用する構造部材（RC 柱、RC 壁、RC 大梁、RC 小梁）や壁開口（建具）などを部材リストに登録しましょう。
本書では「RC 躯体図入門編」でリストに登録しているため、ここでは壁開口（木製戸）のみを登録します。

壁開口－木製戸

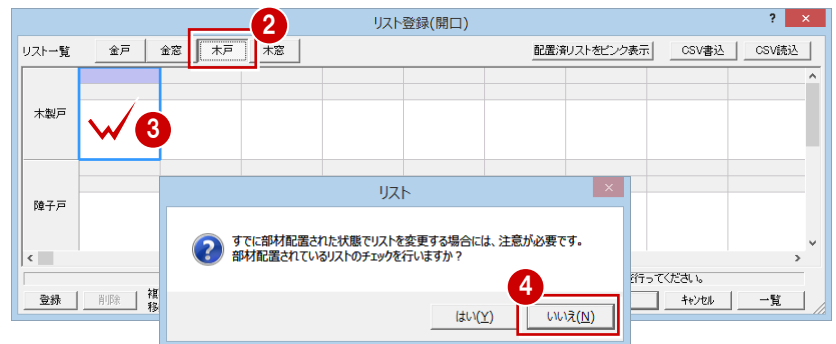
① [開口] をクリックします。



② [木戸] をクリックします。

③ [木製戸] の未登録欄をダブルクリックします。

④ リストチェック実行の確認画面が表示されたら、[いいえ] をクリックします。
[開口登録] ダイアログが開きます。



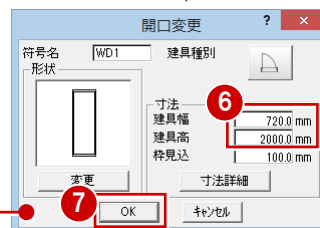
⑤ [建具種別] を「片開」に変更します。



⑥ [建具幅] を「720」に変更して、[建具高] が「2000」であることを確認します。

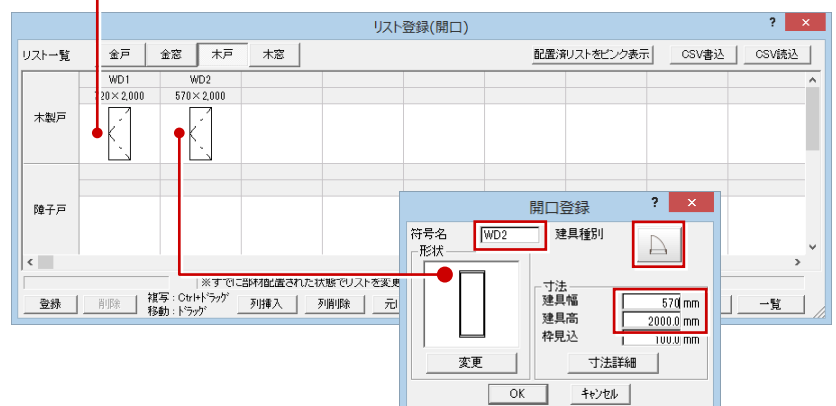
⑦ [OK] をクリックします。

[リスト登録 (開口)] ダイアログに戻ります。



⑧ 同様な操作で、WD2 を右図のように登録しましょう。

- 「WD2」
建具幅 : 570 mm
建具高 : 2000 mm



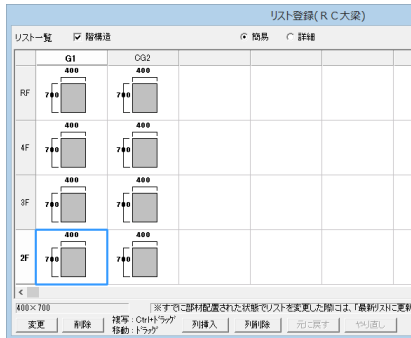
他部材の確認

次の部材が登録されていることを確認しましょう。

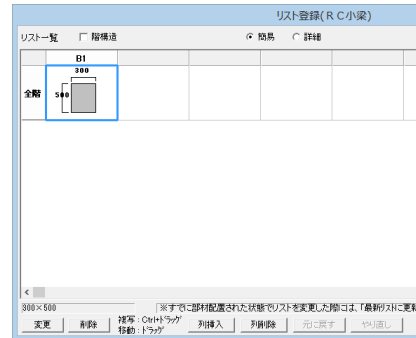
- RC 大梁
- RC 小梁
- RC 柱
- RC 壁
- 壁開口 (金属戸・窓)

操作については、「RC 躯体図入門編」の「2.部材リストを登録する」を参照してください。

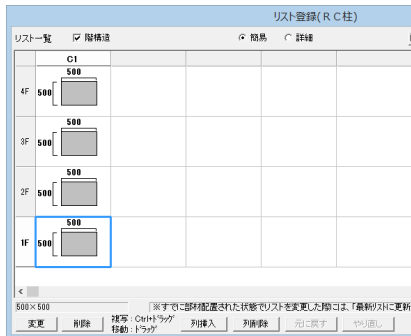
● RC 大梁



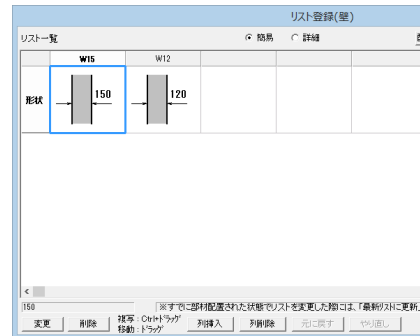
● RC 小梁



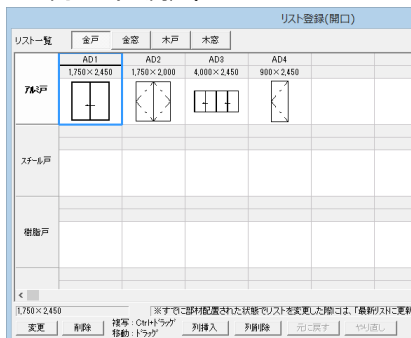
● RC 柱



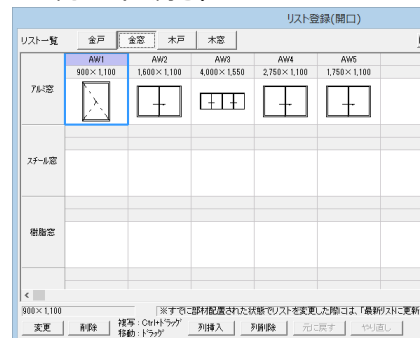
● RC 壁



● 壁開口 (金属戸)



● 壁開口 (金属窓)



リスト登録の終了

使用する部材を登録できたら、リスト登録を終了しましょう。

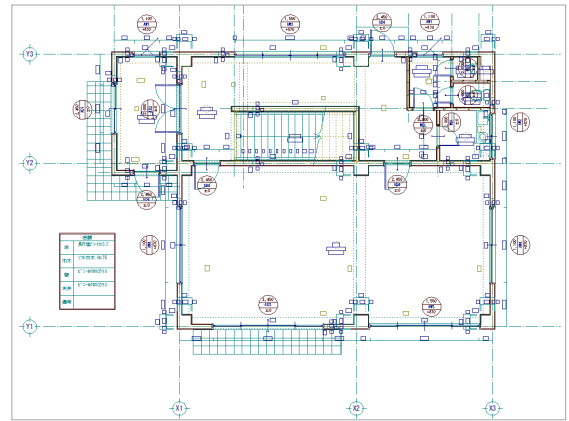
- ① [部材リスト選択] ダイアログの [終了] をクリックします。



[処理選択] ダイアログに戻ります。

2 平面詳細図 1 階を入力する

「平面詳細図 1 階」を開いて、RC 躯体図データを読み込み、内部に LGS 壁、壁開口（木製戸）などを入力していきましょう。

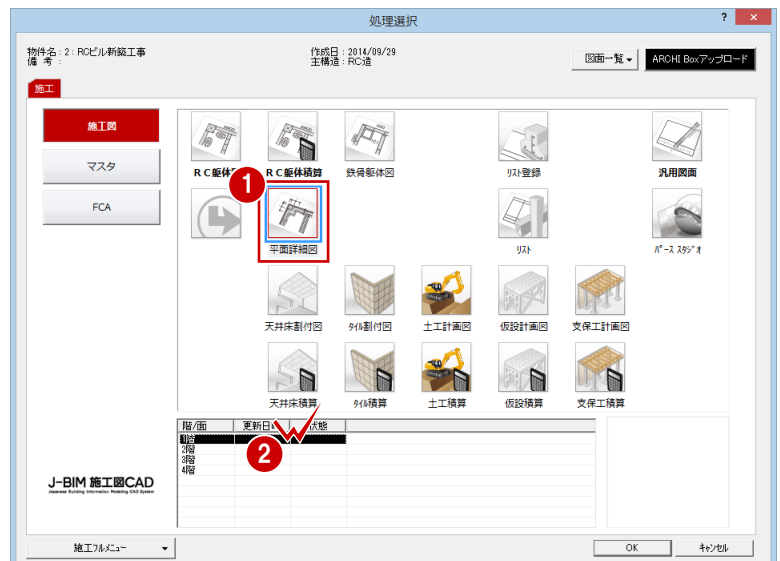


【完成図】

2-1 平面詳細図 1 階を開く

① [処理選択] ダイアログで「平面詳細図」をクリックします。

② [図面一覧] で「1 階」をダブルクリックします。



【1 階 平面詳細図：施工】ウィンドウが開きます。

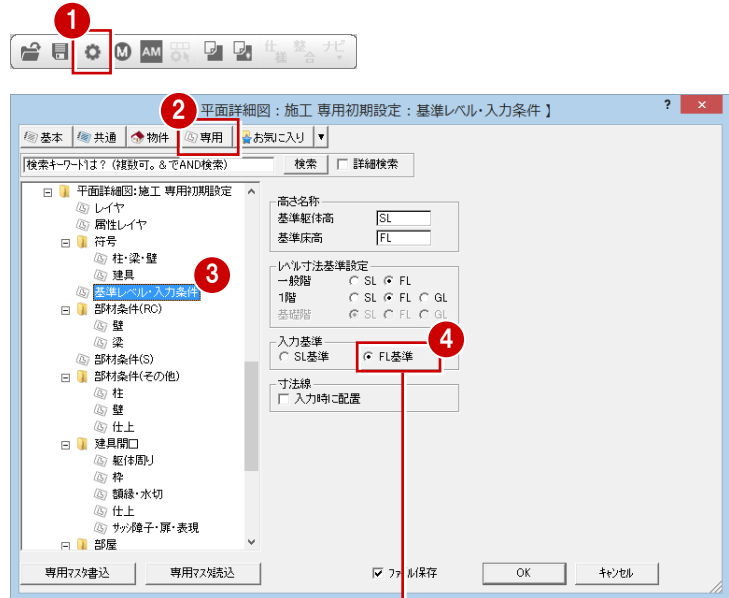
2-2 初期設定の確認・変更

平面詳細図に関する初期設定を確認・変更しましょう。

専用初期設定を確認・変更する

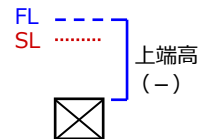
部材の高さ基準の確認

- 1 [設定] をクリックします。
[設定] ダイアログが開きます。
- 2 [専用] をクリックします。
- 3 ツリーから「基準レベル・入力条件」を選びます。
- 4 [入力基準] の [FL 基準] にチェックが付いていることを確認します。



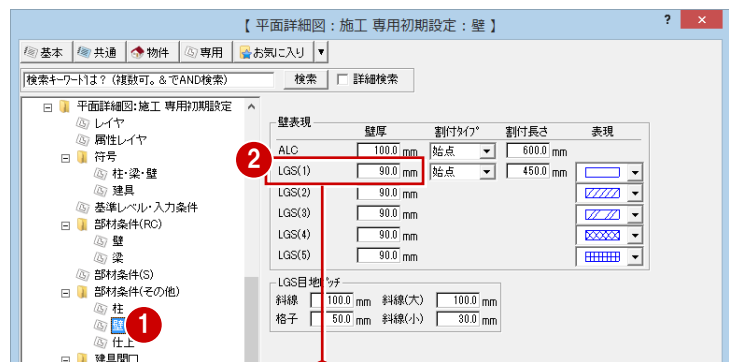
部材の高さを FL 基準で扱います。
次図は大梁のダイアログです。「2FL」は、
上端高を 2 階 FL 基準で指定することを表
しています。

上端高(2FL±) -30.0 mm



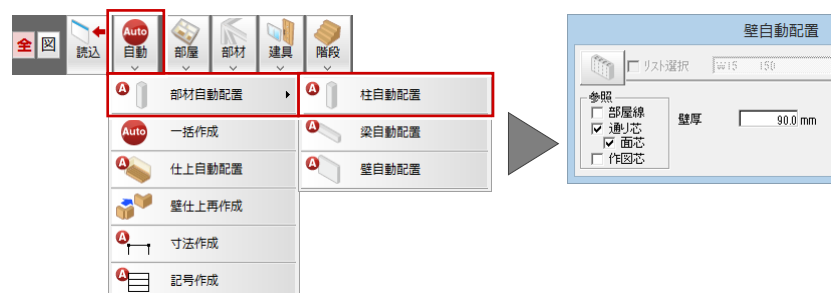
LGS 壁の壁厚（初期値）の確認

- 1 ツリーから「部材条件(その他)」にある「壁」をクリックします。
- 2 [LGS (1)] の壁厚が「90 mm」であることを確認します。



本書では、[自動]メニューの[壁自動配置]
を使用して、LGS 壁（間仕切り壁）を自動
配置します。

このとき、[LGS (1)] の壁厚が初期値にな
ります（自動配置時に変更可）。

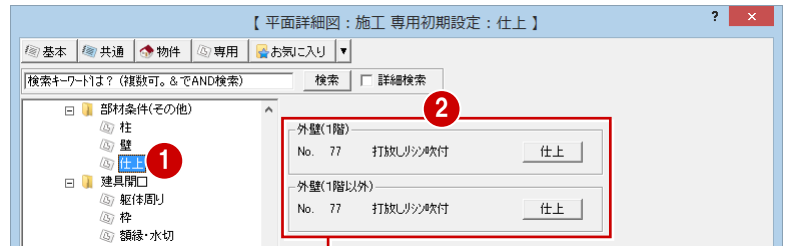


2 平面詳細図 1 階を入力する

外部仕上の確認

- 1 ツリーから「部材条件(その他)」にある「仕上」をクリックします。
- 2 [外壁(1階)] と [外壁(1階以外)] がともに「No.77 打放しリシン吹付」であることを確認します。

※ P.21「一括処理の実行」(壁・床仕上自動配置)で、外壁にはこの仕上が作成されます。

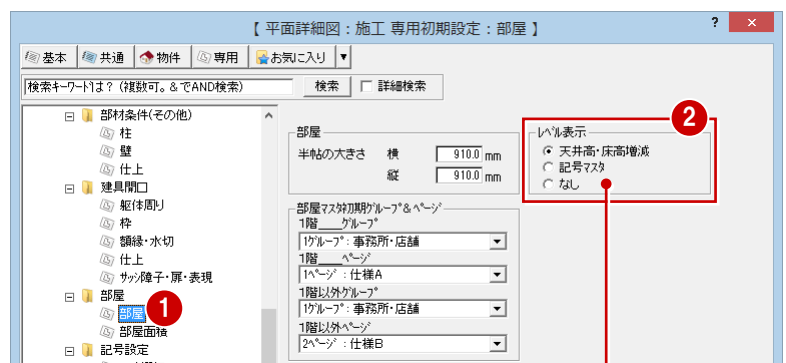


1階と1階以外(2階以上)で使用する外壁仕上を設定します。

部屋のレベル表示の確認

- 1 ツリーから「部屋」にある「部屋」をクリックします。
- 2 [レベル表示] の [天井高・床高増減] にチェックが入っていることを確認します。

※ 部屋を入力すると、ここで指定した表記でレベルが表示されます。



部屋入力時に、右図のように部屋の「天井高 CH+」と「床高増減 FL±」を表示します。

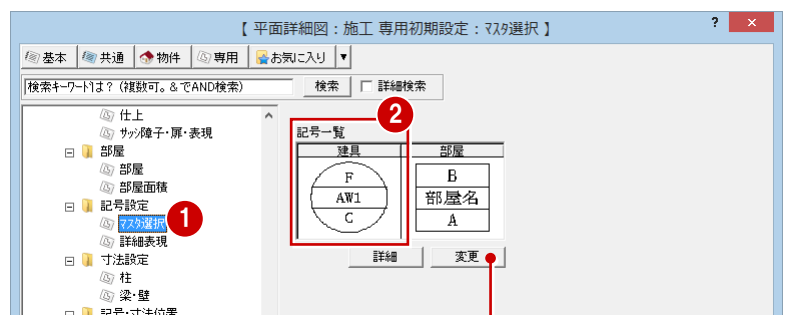
記号で表示したい場合は、[記号マスタ] にチェックを入れます。次の[専用初期設定(マスタ選択)]の[部屋]で設定されている記号で表示されます。

事務所
(CH 2,500)
(FL ±0)

建具記号の確認

- 1 ツリーから「記号設定」にある「マスタ選択」をクリックします。
- 2 [記号一覧] で建具の記号を確認します。

※ RC 躯体図データを読み込む時、建具を入力する時、この建具記号が配置されます。



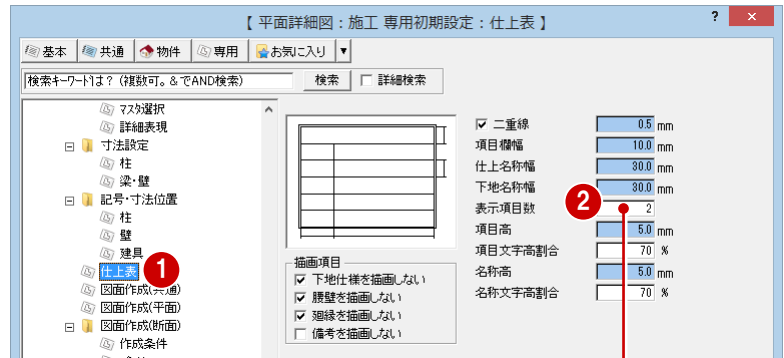
使用する記号を変更する場合は、一覧で記号を選択して、[変更]をクリックします。

※ 記号の作成は [記号マスタ] で行います。詳しくは「RC 躯体図 Q&A 編」の「Q1 オリジナルの記号を作成するには」を参照してください。

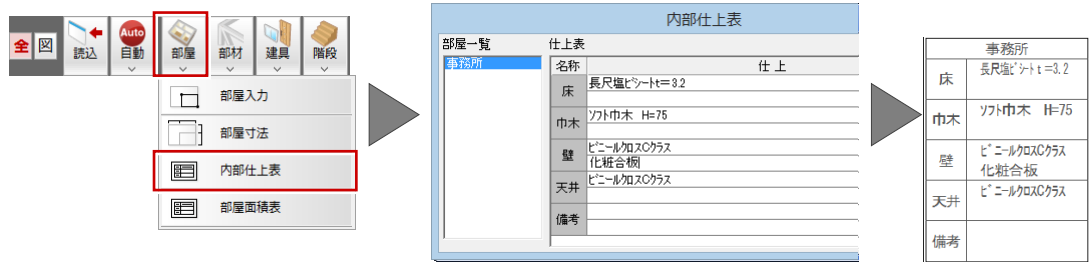
内部仕上表の確認

- 1 ツリーから「仕上表」をクリックします。
- 2 [表示項目数] を「2」に変更します。

※ 内部仕上表は、[部屋] メニューの [内部仕上表] で作成します。⇒ P.30 参照



内部仕上表を作成する際、仕上をいくつか追記したい場合は、[表示項目数] を「2」以上に変更します。



表示項目数が「2」の場合

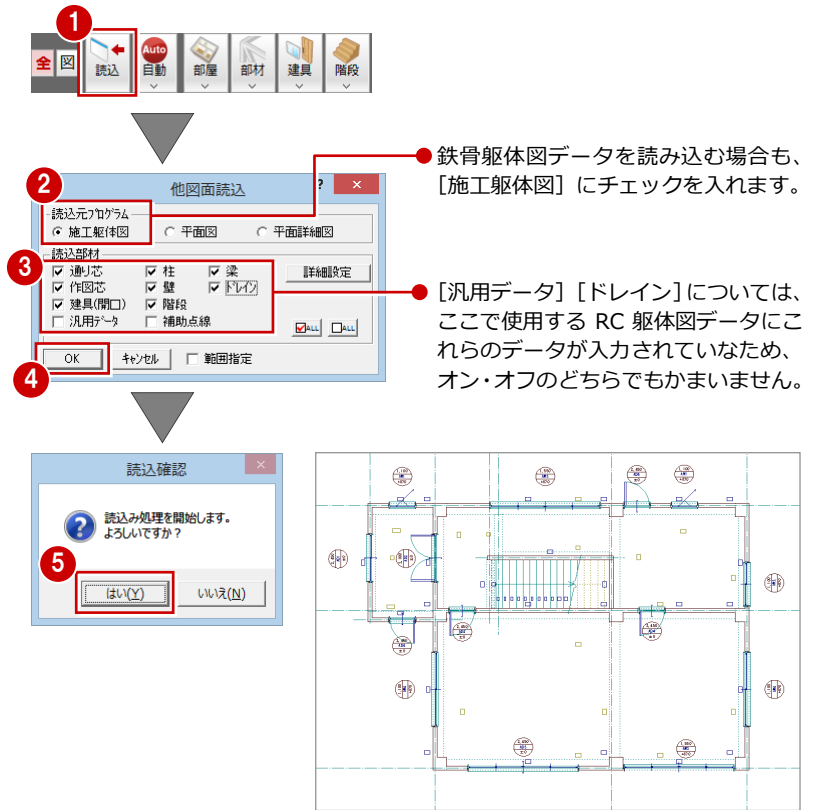
- 3 [ファイル保存] にチェックが付いていることを確認します。
- 4 [OK] をクリックして、ダイアログを閉じます。



2-3 RC 躯体図データの読み込み

1 階平面詳細図に RC 躯体図データを読み込みましょう。

- 1 [読込] をクリックします。
[他図面読込] ダイアログが開きます。
- 2 RC 躯体図を読み込むため、[施工躯体図] にチェックが入っていることを確認します。
- 3 読み込むデータにチェックを付けます。
ここでは、[通り芯] [作図芯] [建具 (開口)] [柱] [壁] [階段] [梁] [ドレイン] にチェックを付けます。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 読み込み開始の確認画面で、[はい] をクリックします。



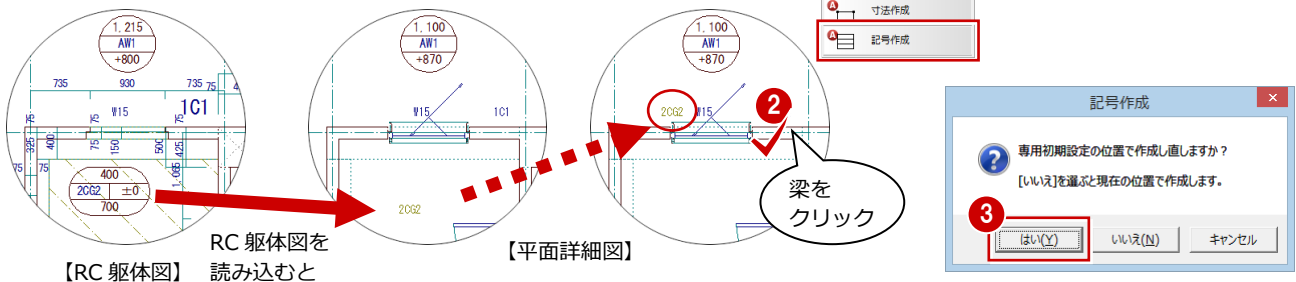
【部材寸法線】
RC 躯体図データから読み込まれません。

【記号・符号】
RC 躯体図データの開口記号は、[専用初期設定 (記号設定-マスタ選択)] ダイアログで設定している建具記号に置き換えて読み込まれます。梁の記号は、符号に置き換えて読み込まれます。

補足 記号・符号が読み込まれる位置

RC 躯体図データの記号・符号位置を参照するため、右図のように梁と離れた位置に符号「2CG2」が配置されることがあります。このような場合は、記号・符号を移動するか、[自動] メニューの [記号作成] を使用して記号・寸法を再作成 (※) します。
⇒ P.28「編集」参照

※ 柱・壁・建具の記号・符号は、専用初期設定の「記号・寸法位置」の「柱」「壁」「建具」で設定されている記号・寸法位置で再作成されます。ただし、梁の符号位置はプログラム固定です。



2-4 作図芯の入力

間仕切り壁が必要な箇所に、壁芯となる作図芯を入力しましょう。

通り芯と異なる長さの作図芯を連続入力する

① [通り芯] メニューから [平行入力] を選びます。開いたダイアログから、[任意長] を選択します。

② 基準となる通り芯（ここでは X3）をクリックします。

③ [ピック（フリー）] のみオンにします。

④ 作図芯の開始位置と終了位置を指定します。

⑤ 入力方向をクリックします。

⑥ [作図芯] にチェックを入れます。

⑦ [間隔] に「500」と入力します。
次の作図芯までの距離になります。

⑧ [追加] をクリックします。

⑨ [間隔] に「1000」と入力します。

⑩ [追加] をクリックします。

⑪ [間隔] に「500」と入力します。

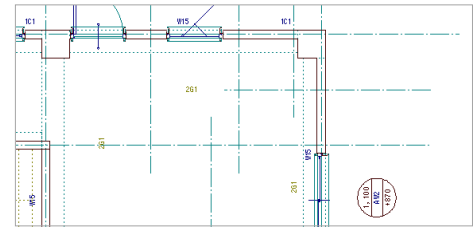
⑫ [追加] をクリックします。

⑬ [間隔] に「1100」と入力します。

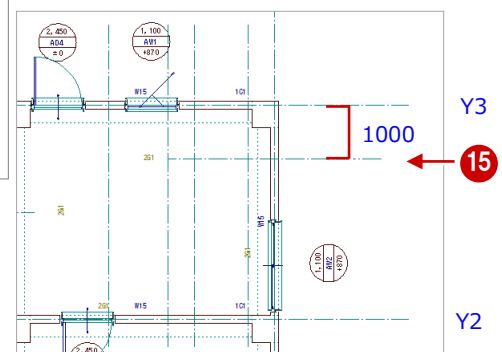
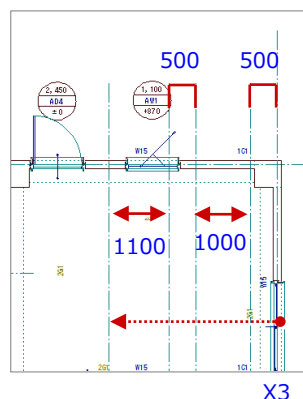
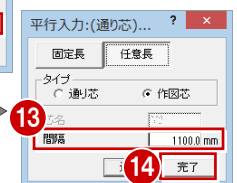
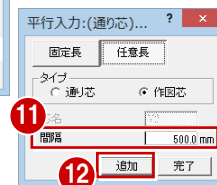
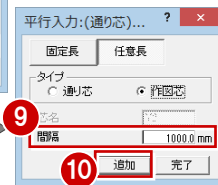
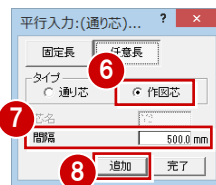
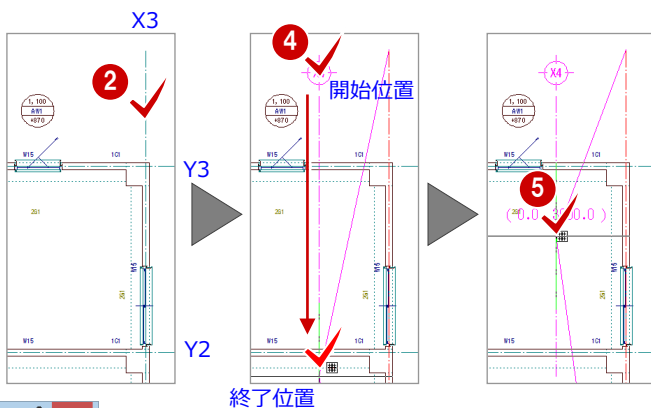
⑭ [完了] をクリックします。

X3 通り芯に平行な任意の長さの作図芯が 4 本入力されます。

⑮ 同様にして、Y3 に平行な作図芯を入力します。

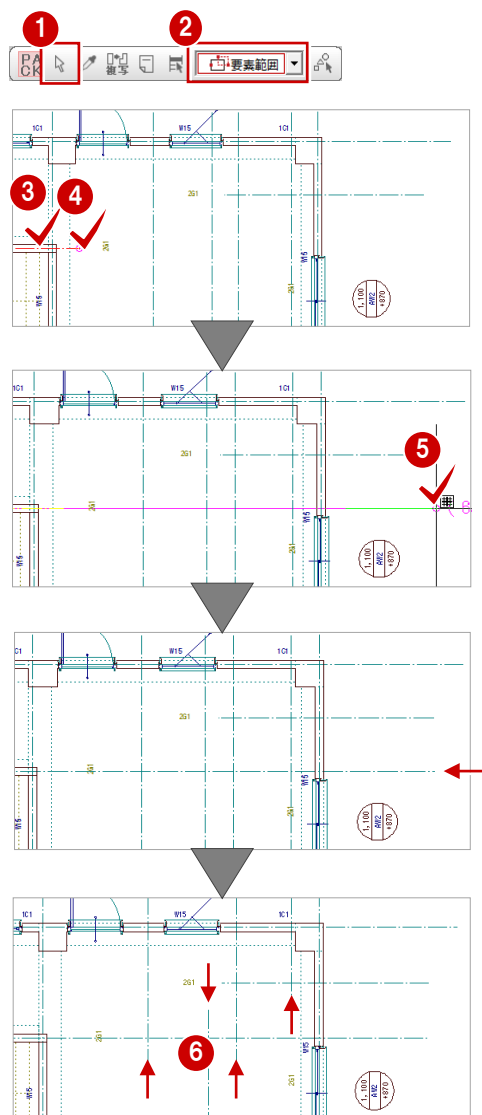


【完成図】



作図芯を伸縮する

- 1 [対象データ選択] をクリックします。
- 2 [操作モード切替] で選択方法が「要素範囲」であることを確認します。
- 3 作図芯をクリックして選択します。
- 4 作図芯上のトラッカー（○）をクリックします。
端点を移動することで作図芯を伸ばします。
- 5 トラッカーの移動先をクリックします。



- 6 同様に、右図の 4 本の作図芯を縮めます。

2-5 部屋の入力

通り芯と作図芯を利用して、部屋を入力しましょう。

矩形の部屋を入力する

- ① [部屋] メニューから [部屋入力] を選びます。

[部屋入力] ダイアログが開きます。

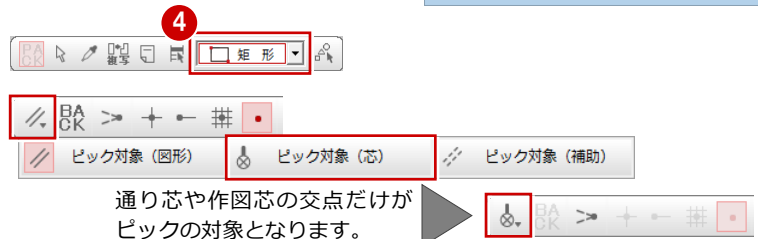
- ② [部屋マスタ] で「店舗」をクリックします。

- ③ 天井高（部屋床高から天井までの高さ）を 2800 mm としたいため、[天井] を「部屋床高 + 2800」に変更します。

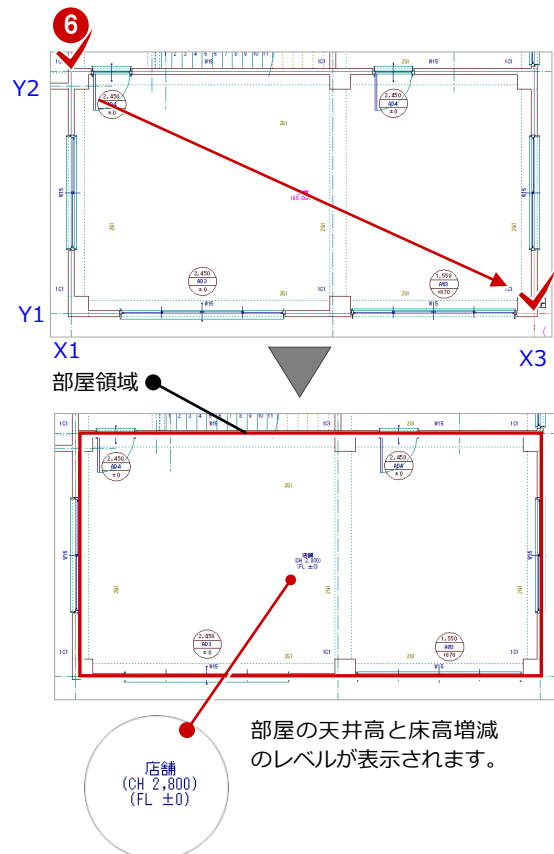
- ④ 入力方法を「矩形」に変更します。

- ⑤ [ピック対象切替] をクリックして、メニューから [ピック対象 (芯)] を選びます。

- ⑥ 通り芯の交点をクリックして、始点 ⇒ 対角点を指定します。



名称	仕上	下地
床	長尺塩ビトリリウム	珪砂金コテ
巾木	ワト巾木 H=75	
壁	ビニル加ス クラス	PB下地 t=12.5
天井	ビニル加ス クラス	PB下地 t=9.5



2 平面詳細図 1 階を入力する

7 同様な操作で、矩形の部屋を入力します。

※ 風除室

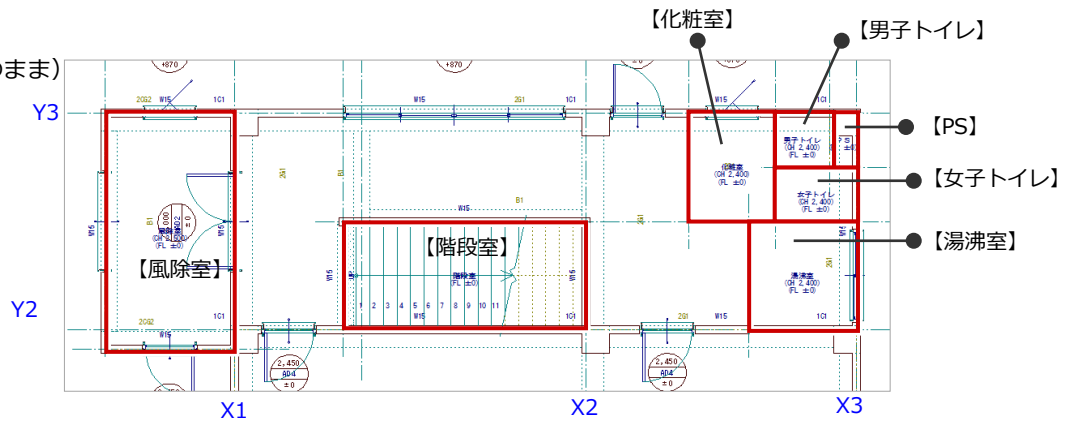
⇒ 天井高：2300 → 2500 mm (変更)

※ 化粧室, 湯沸室, 男子トイレ, 女子トイレ

⇒ 天井高：2400 mm (初期値のまま)

※ 階段室, PS

⇒ 天井なし (初期値のまま)



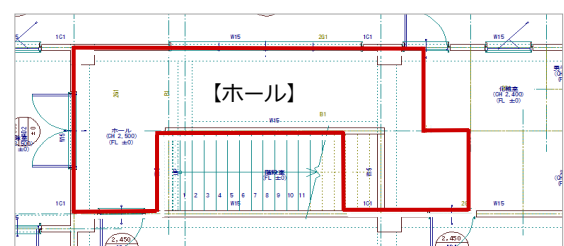
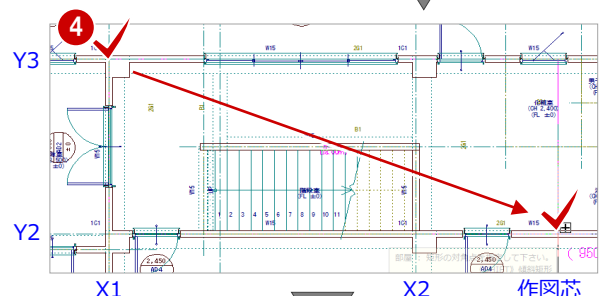
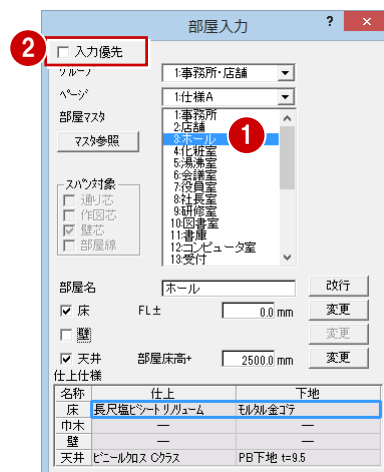
部屋のないスペースに 部屋を入力する

1 [部屋入力] ダイアログの [部屋マスタ] で「ホール」をクリックします。

2 [入力優先] のチェックがはずれていることを確認します。

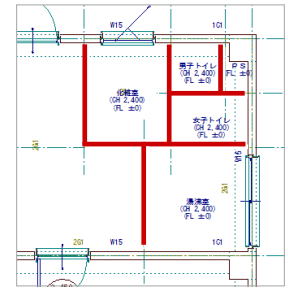
3 入力方法が「矩形」であることを確認します。

4 通り芯の交点をクリックして、始点 ⇒ 対角点を指定します。
(ピックモード：芯)



2-6 LGS 壁の自動配置

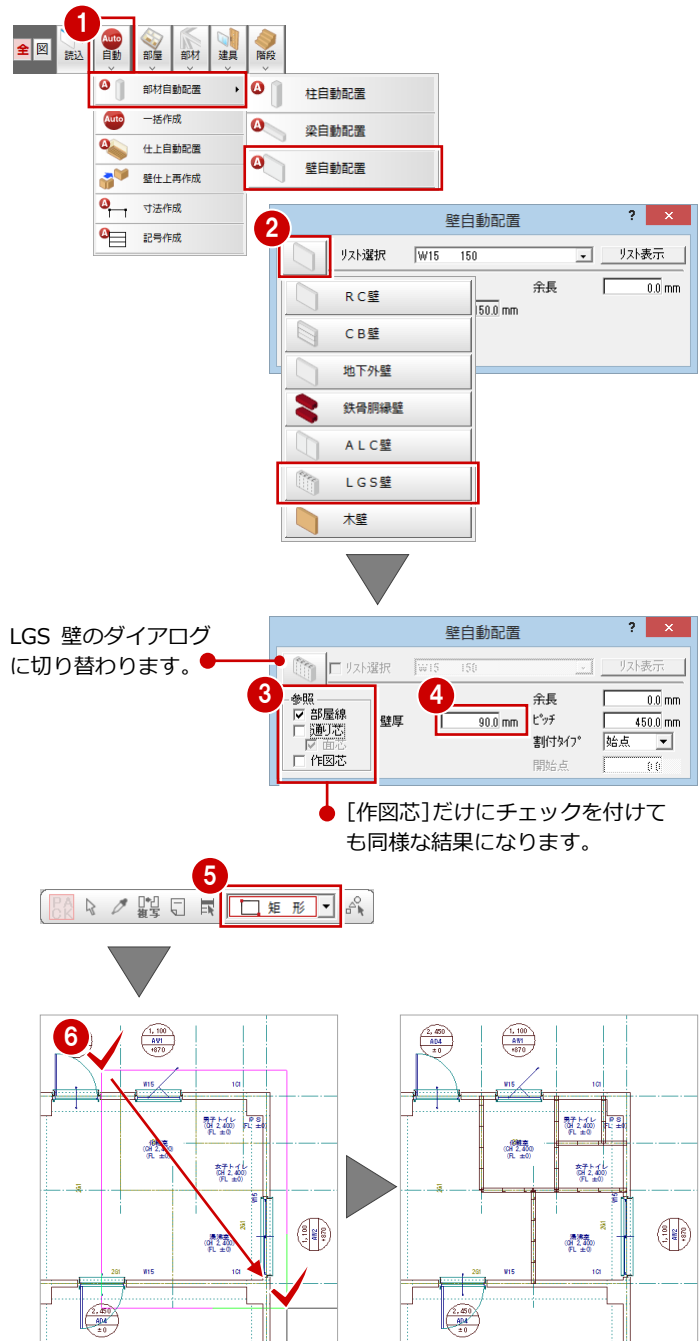
化粧室、湯沸室、男子トイレ、女子トイレの箇所に、部屋線を利用して LGS 壁を自動配置しましょう。



【LGS 壁を配置する箇所】

壁を自動配置する

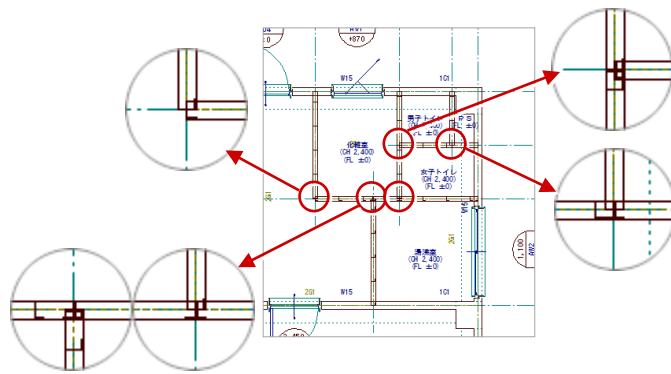
- 1 [自動] メニューから [部材自動配置] の [壁自動配置] を選びます。
[壁自動配置] ダイアログが開きます。
- 2 [RC 壁] をクリックして、[LGS 壁] を選びます。
- 3 [参照] で [部屋線] だけにチェックを付けます。
- 4 [壁厚] が「90 mm」であることを確認します。
- 5 入力方法が「矩形」であることを確認します。
- 6 化粧室、湯沸室、男子トイレ、女子トイレの部屋を囲むように始点 ⇒ 対角点をクリックして、範囲を指定します。



壁の自動編集を実行する

右図のように、LGS 壁の端部が重なったり、壁同士が交差したりする部分を自動編集します。

※ P.21 「一括処理の実行」でも同様の処理を行うことができます。



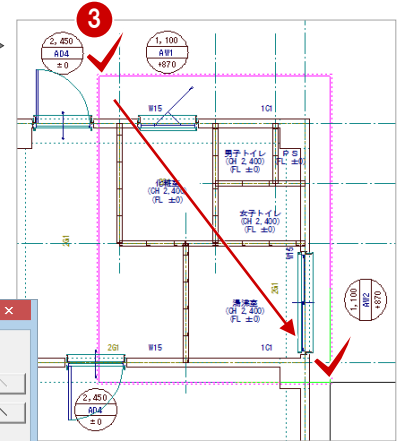
1 [ツール] メニューから [壁自動編集] を選びます。



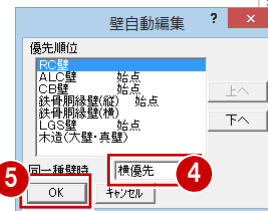
2 選択方法が「要素範囲」であることを確認します。



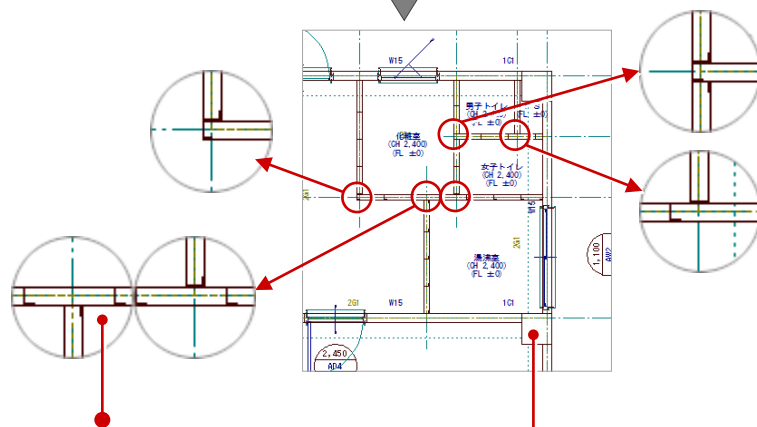
3 LGS 壁が対象となるように、始点 ⇒ 対角点をクリックして、範囲を指定します。
[壁自動編集] ダイアログが開きます。



4 [同一種壁時] が「横優先」であることを確認します。



5 [OK] をクリックします。



横方向の壁が優先されます。

この操作によって柱壁が包絡されていない状態に戻りますが、再度、P.21 「一括処理の実行」で柱壁の包絡処理を行います。

2-7 建具の入力

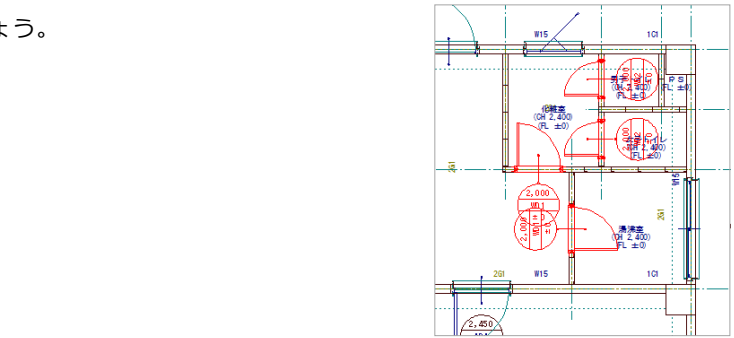
リスト登録で登録した開口（木製戸）を入力しましょう。

木製戸を入力する

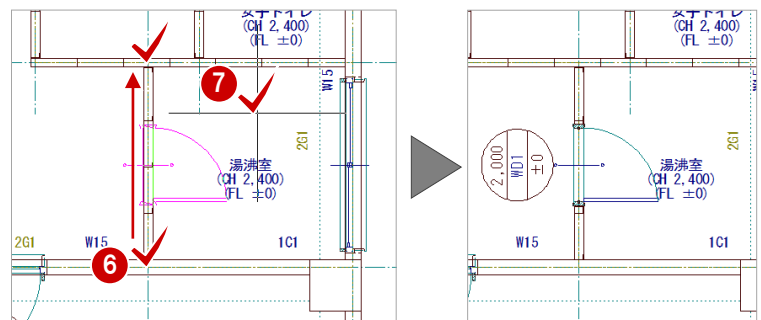
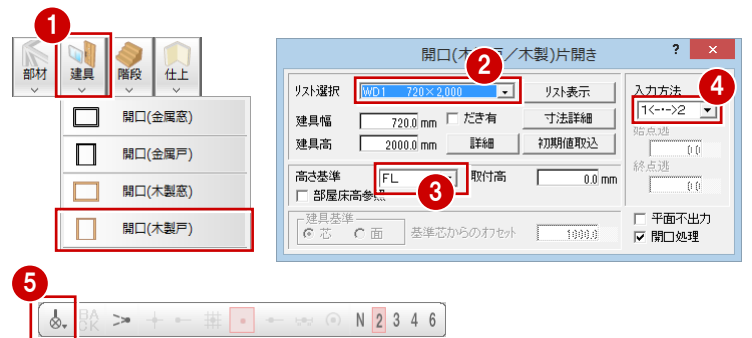
通り芯や通り芯を基準にして、開口「WD1」と「WD2」を入力します。

開き方向を指定した入力

- 1 [建具] メニューから [開口 (木製戸)] を選びます。
- 2 [リスト選択] が「WD1 720×2,000」であることを確認します。
- 3 [高さ基準] が「FL」であることを確認します。
- 4 [入力方法] が「1<->2」であることを確認します。
- 5 ピックモードが [ピック対象 (芯)] であることを確認します。
- 6 通り芯の交点をクリックして、開口の始点と終点を指定します。
- 7 扉の開く方向を指定します。

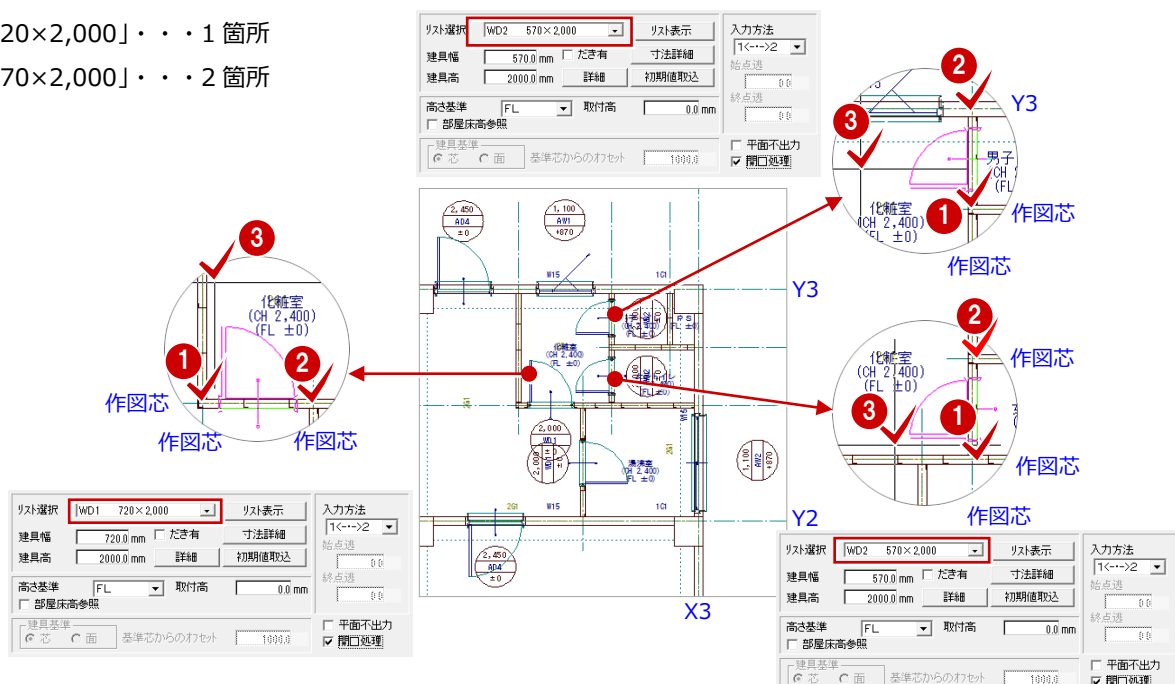


【完成図】



残りの開口を入力

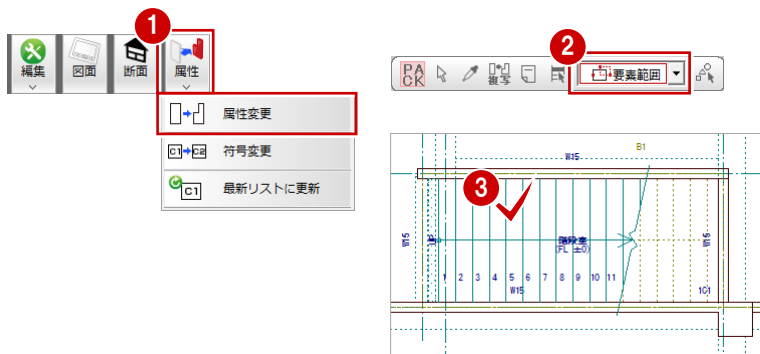
「WD1 720×2,000」・・・1箇所
「WD2 570×2,000」・・・2箇所



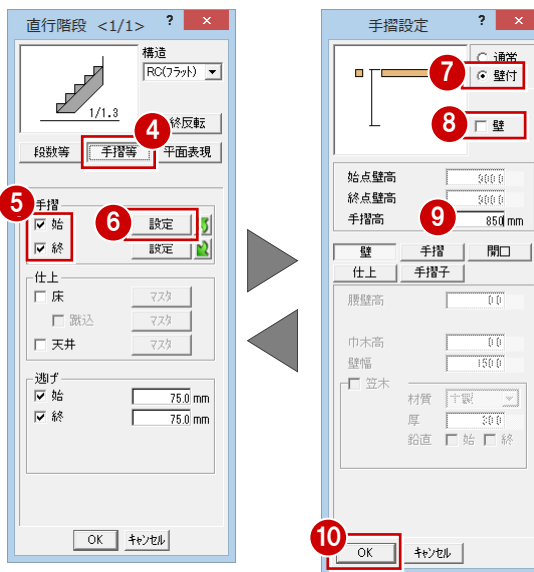
2-8 階段の属性変更

ここでは、階段の両側に手摺を設定します。

- 1 [属性] メニューから [属性変更] を選びます。
- 2 選択方法が「要素範囲」であることを確認します。
- 3 階段をクリックします。
[階段] ダイアログが開きます。

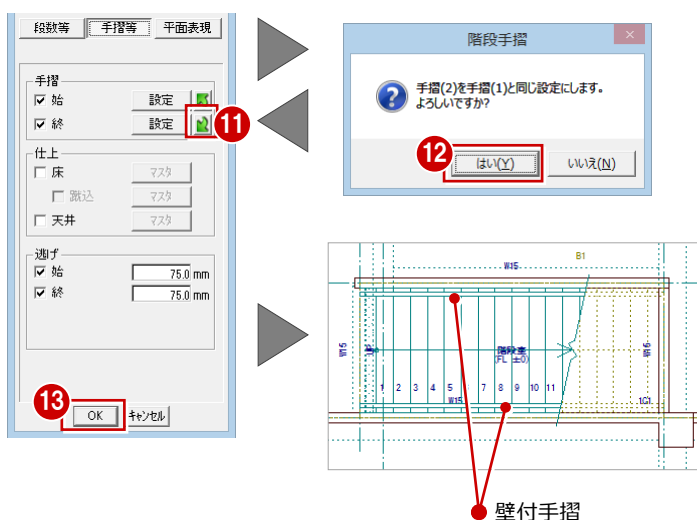


- 4 [手摺等] をクリックします。
- 5 [手摺] で [始] [終] の両方にチェックを付けます。
- 6 [始] 右横の [設定] をクリックします。
[手摺設定] ダイアログが開きます。
- 7 ここでは RC 壁に取り付ける手摺とするため、[壁付] にチェックを入れます。
- 8 [壁] のチェックをはずします。
- 9 [手摺高] に「850」と入力します。
- 10 [OK] をクリックします。
始点側の手摺が設定されます。



次に、終点側の手摺に始点側の手摺の設定を複製して、始点側の手摺と同じ設定にします。

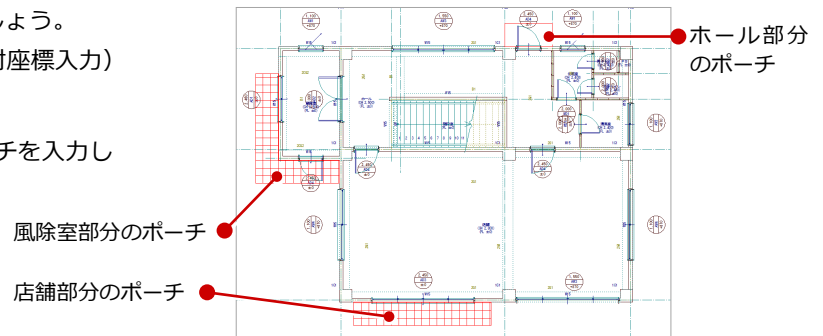
- 11 [手摺(1)の設定を手摺(2)へ複製します] をクリックします。
- 12 確認画面で [はい] をクリックします。
終点側の手摺属性が始点側の手摺と同じになります。
- 13 [OK] をクリックします。
階段の両側に手摺が描画されます。



2-9 ポーチの入力

風除室、店舗、ホール部分にポーチを入力しましょう。
ここでは、入力補助機能(クリック位置からの相対座標入力)を使って入力します。

※ 補助線を引き、部屋線と補助線をもとにポーチを入力してもかまいません。



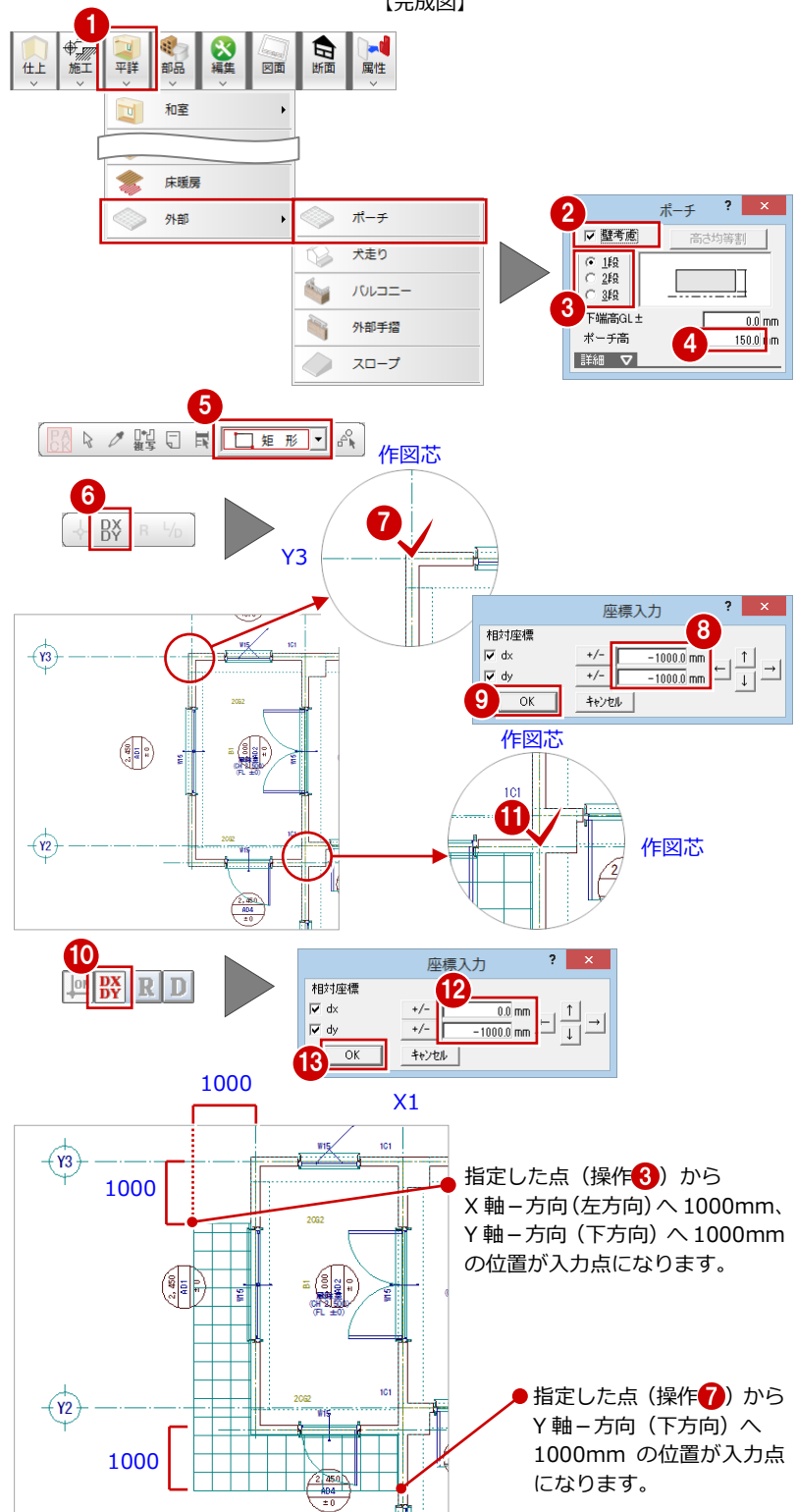
【完成図】

ポーチを入力する

通り芯と作図芯を利用してポーチを配置しましょう。

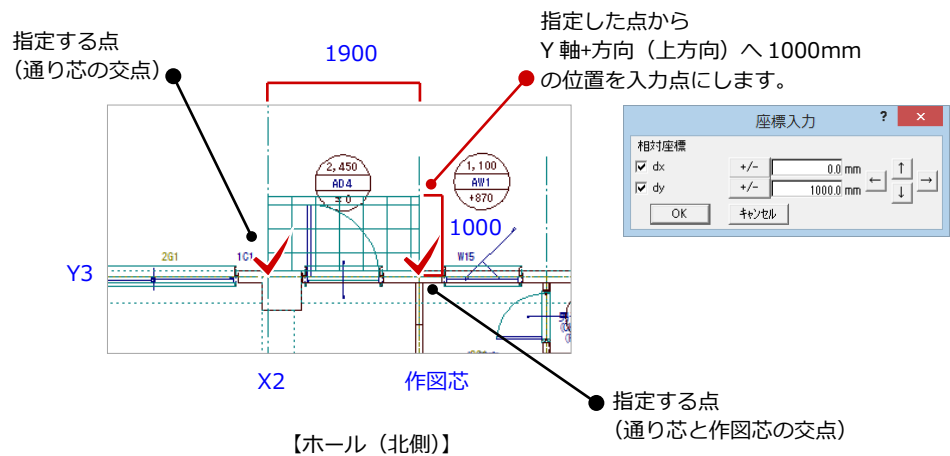
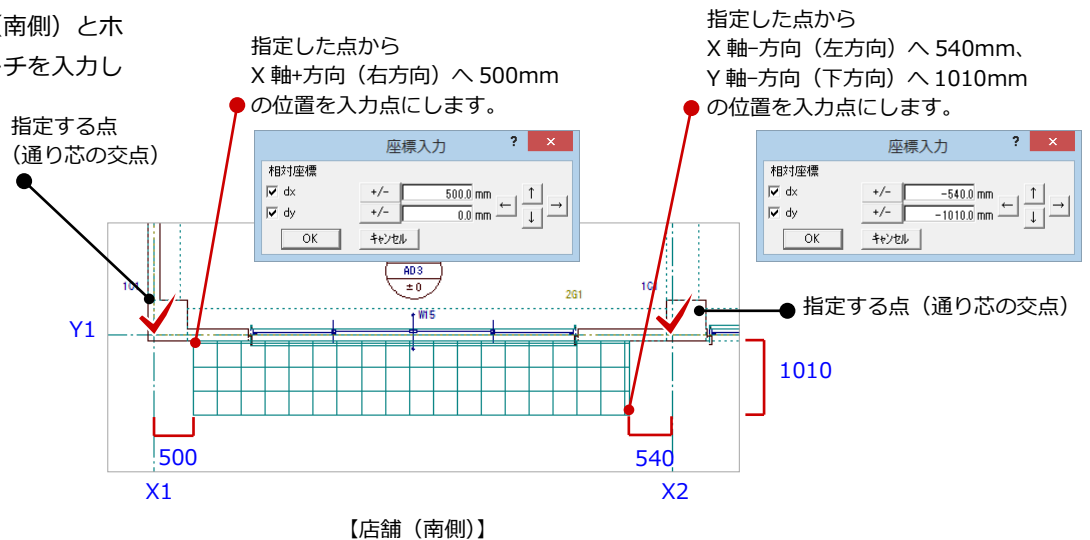
風除室部分に入力

- 1 [平詳] メニューから [外部] の [ポーチ] を選びます。
[ポーチ] ダイアログが開きます。
- 2 [壁考慮] にチェックが付いていることを確認します。
- 3 [1段] にチェックが入っていることを確認します。
- 4 [ポーチ高] が「150」であることを確認します。
- 5 入力方法が「矩形」であることを確認します。
- 6 [クリック位置からの相対座標入力] をクリックして、オンにします。
- 7 通り芯と作図芯の交点をクリックして、ポーチの1点目を指定します。
(ピックモード：芯)
- 8 [dx] に「-1000」、[dy] に「-1000」と入力します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 再度、[クリック位置からの相対座標入力] をクリックして、オンにします。
- 11 通り芯と作図芯の交点をクリックして、ポーチの2点目を指定します。
[座標入力] ダイアログが開きます。
- 12 [dx] に「0」、[dy] に「-1000」と入力します。
- 13 [OK] をクリックします。



店舗部分とホール部分に入力

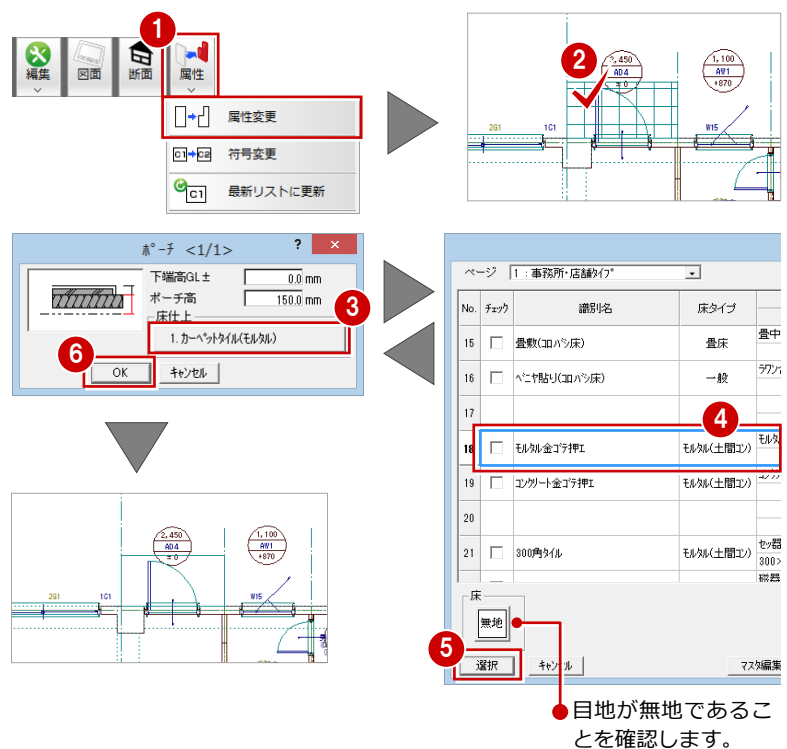
右図のように店舗部分（南側）とホール部分（北側）にポーチを入力します。



ポーチの属性を変更する

ホール部分のポーチの床仕上を変更しましょう。

- ① [属性] から [属性変更] をクリックします。
- ② ポーチをクリックします。
- ③ [床仕上] をクリックします。
[床仕上マスタ選択] ダイアログが開きます。
- ④ 一覧から「No.18 珪別金ゴ押し」を選びます。
- ⑤ [選択] をクリックします。
[ポーチ] ダイアログに戻ります。
- ⑥ [OK] をクリックします。
ポーチの仕上 (目地が無地) が変更されます。



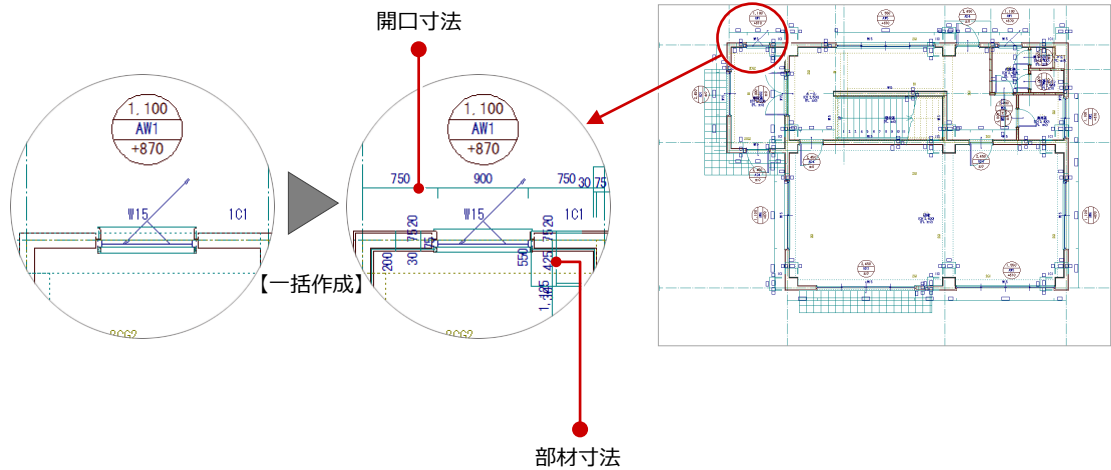
2-10 一括作成の実行

部屋データの仕上属性をもとに内壁仕上、床仕上を自動作成します。また、RCの重なり部分の包絡と部材寸法や記号を一括して作成します。

- ① [自動] メニューから [一括作成] を選びます。
[一括作成] ダイアログが開きます。
- ② [作成範囲指定] のチェックが外れていることを確認します。
- ③ [OK] をクリックします。
一括作成が実行されます。

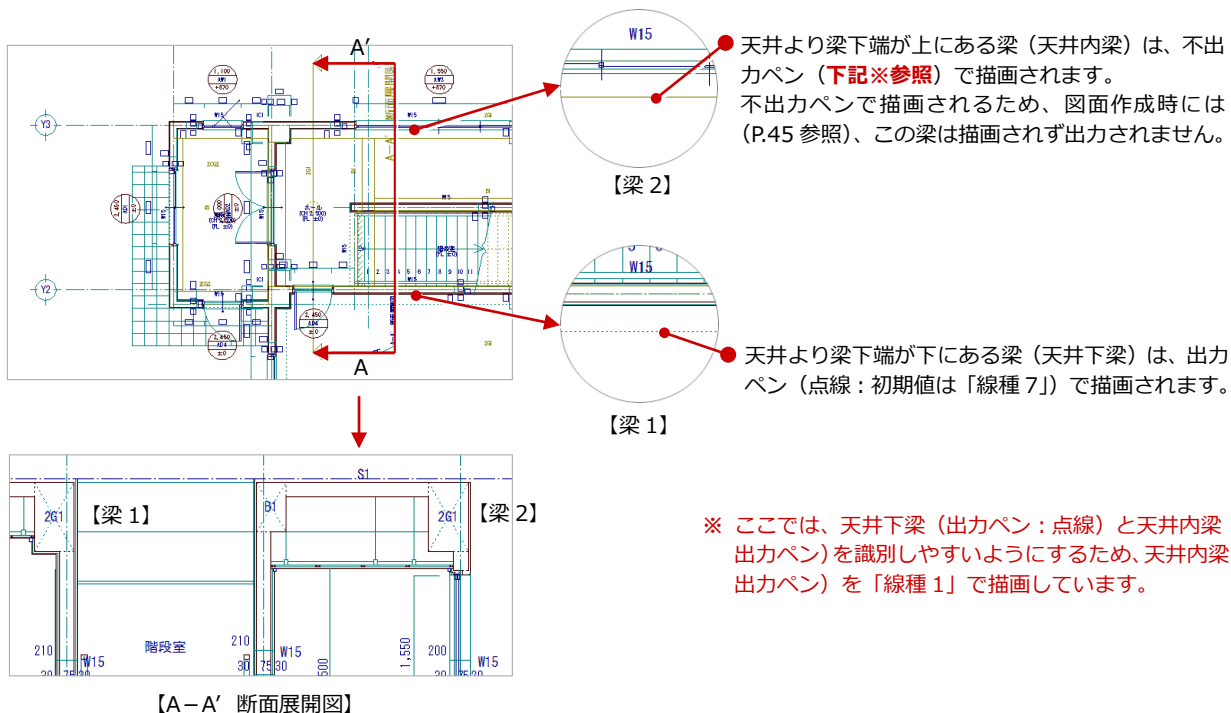


P.16「壁の自動編集を実行する」でLGS壁の自動編集を行っていない場合、またはその他の壁の交差部分が取り合いされていない場合は、[壁自動編集] にチェックを付けます。



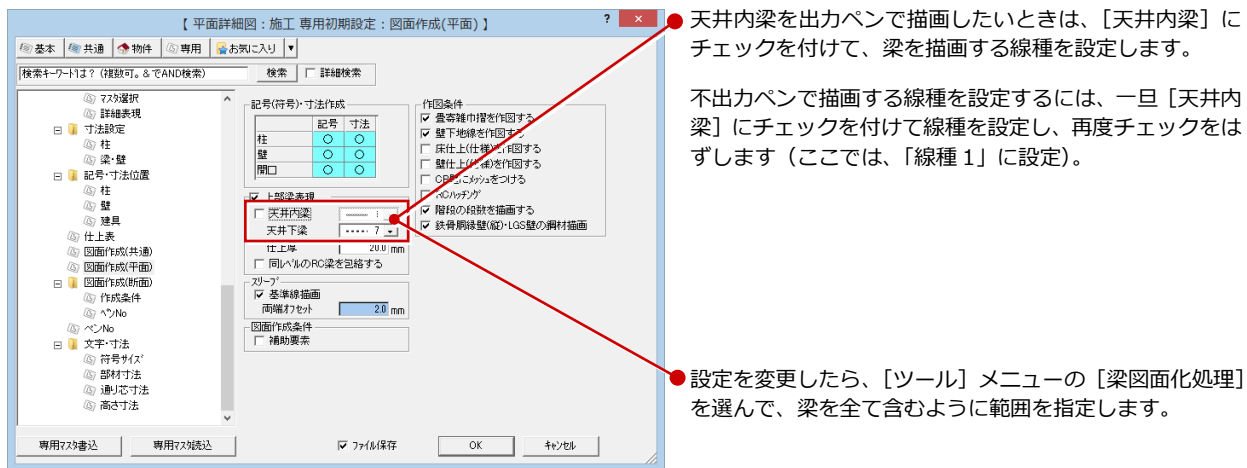
補足 梁図面化された梁の描画

「梁図面化」された梁の描画は、天井と梁の位置によって、次のように異なります。



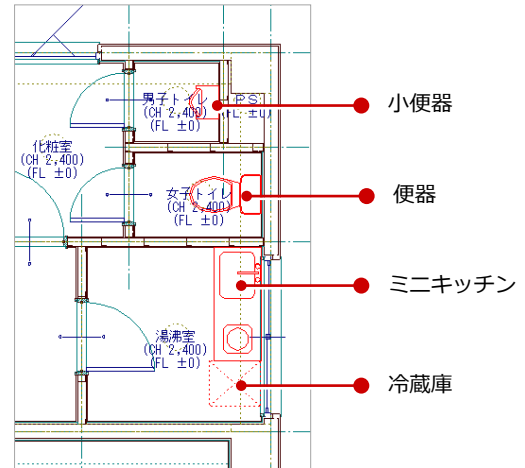
補足 天井内梁を出力するには

天井内梁を出力ペンで描画するかどうか、また天井内梁と天井下梁を描画する線種は、[施工平面詳細図 専用初期設定 (図面作成 (平面))] ダイアログで設定できます。



2-11 部品の入力

P.21「一括処理の実行」で作成された壁仕上面に合わせて、ミニキッチン、冷蔵庫、便器といった設備機器（部品）を入力しましょう。



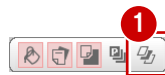
※ 記号と寸法線を非表示にしています

データ表示を切り替える

ここでは、部品を入力する前に、一旦記号と寸法線を非表示にします。

記号、寸法線などの重なりによって、部品などデータの入力範囲が見にくい場合に便利な操作です。

① [レイヤ表示・検索設定] をクリックします。
[レイヤ表示・検索設定] ダイアログが開きます。



② 「068 ○符号」をクリックします。

③ Ctrl キーを押しながら、「069 ○寸法」をクリックします。

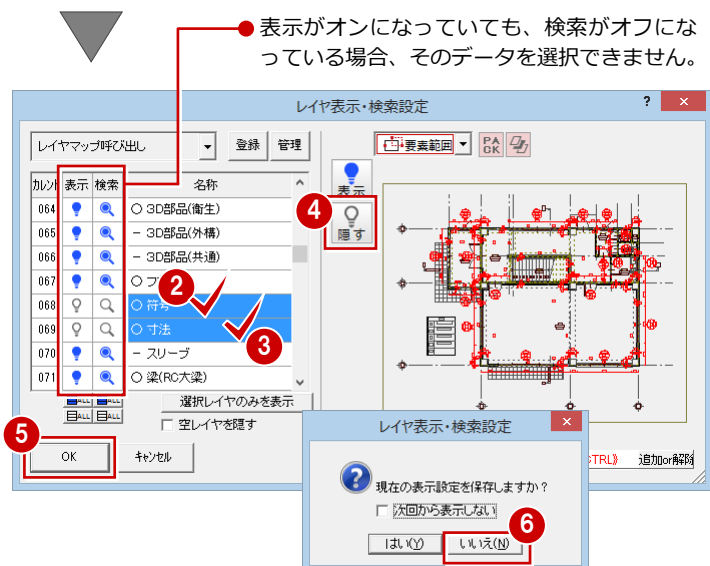
④ [非表示に設定] をクリックします。

選択したレイヤの [表示] と [検索] がオフになります。

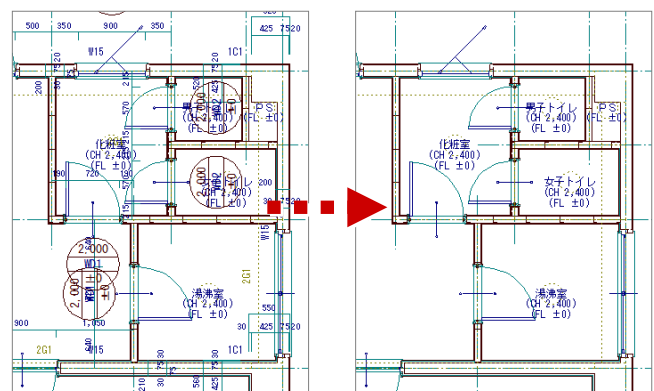
⑤ [OK] をクリックします。

記号と寸法線が非表示になります。

⑥ 表示設定保存の確認画面が表示されたら、[いいえ] をクリックします。



※ データの表示は、部品入力後に元に戻します。



部品を配置する

湯沸室にミニキッチンを入力

① [部品] メニューから [3D 部品 (厨房)] をクリックします。

[3D 部品マスタ選択] ダイアログが開きます。

② [グループ] から「流し台」をクリックします。

③ 一覧で「ミニキッチン 1」をダブルクリックします。

[3D 部品 (厨房)] ダイアログが開きます。

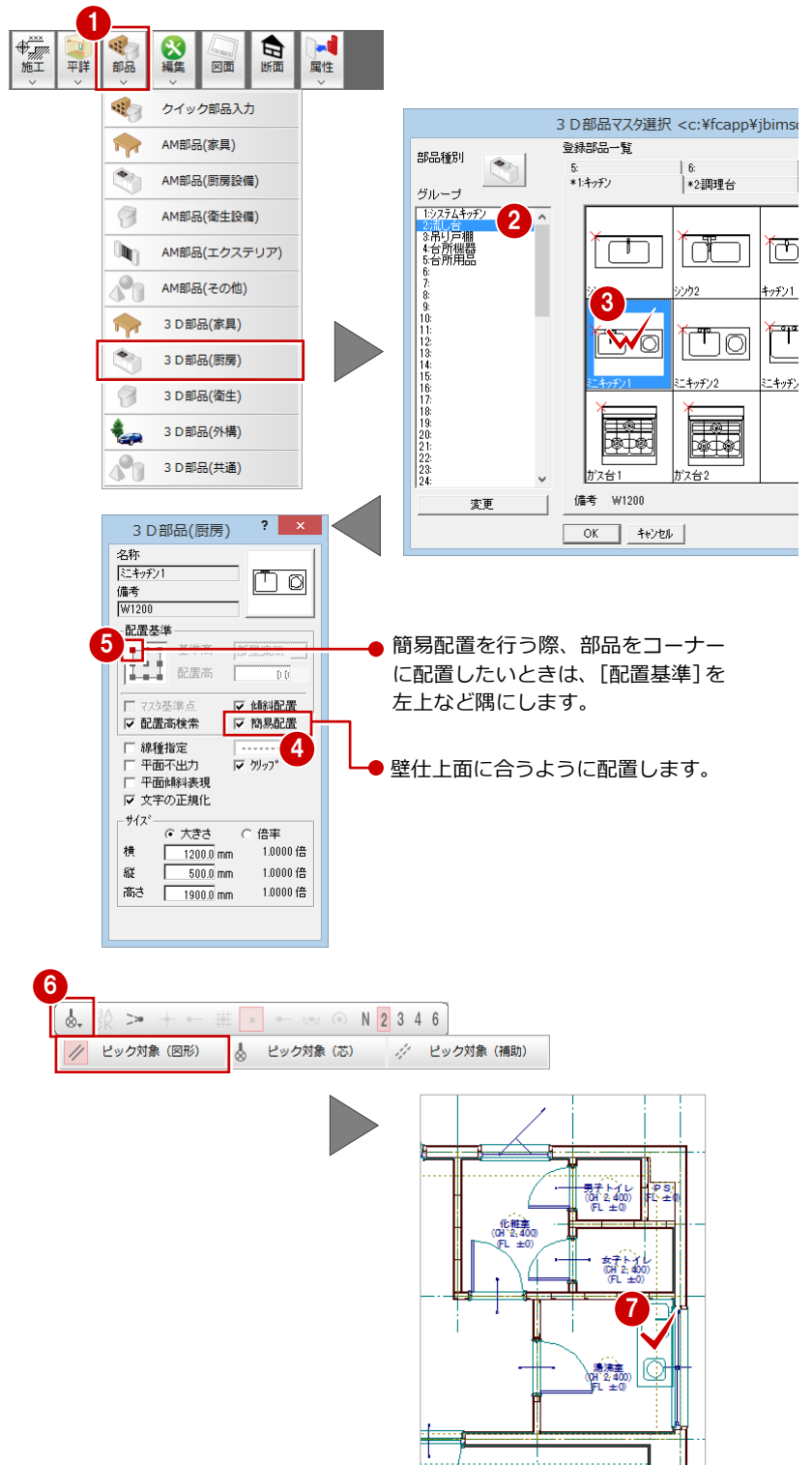
④ [簡易配置] にチェックが付いていることを確認します。

⑤ [配置基準] で左上が赤になっていることを確認します。

⑥ [ピック対象切替] をクリックして、メニューから [ピック対象 (図形)] を選びます。

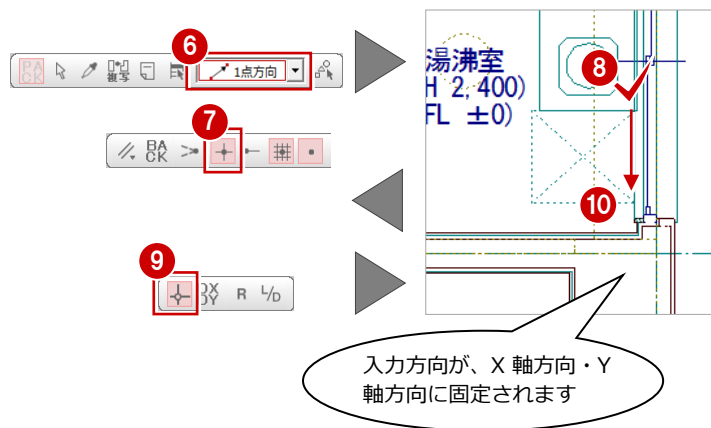
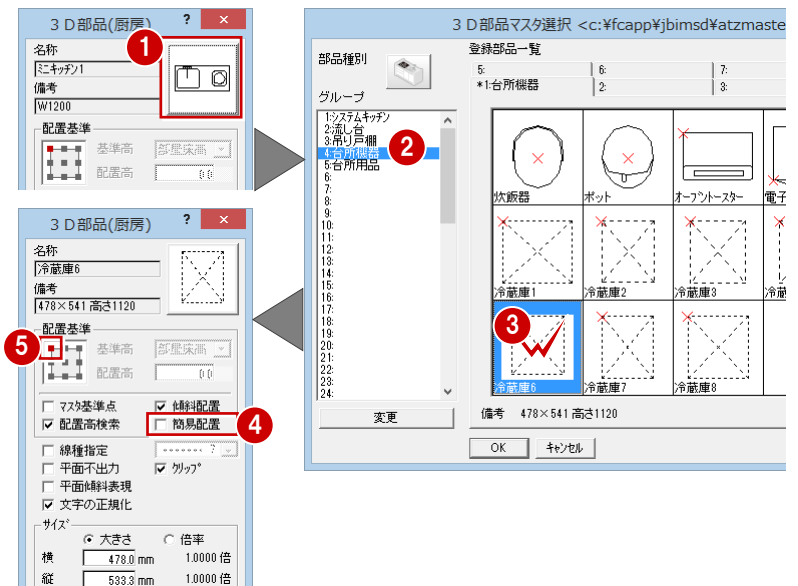
⑦ 湯沸室の右上の壁にカーソルを移動し、部品が壁にぴったり付いたら、クリックします。

部品が壁仕上面に合うように配置されます。



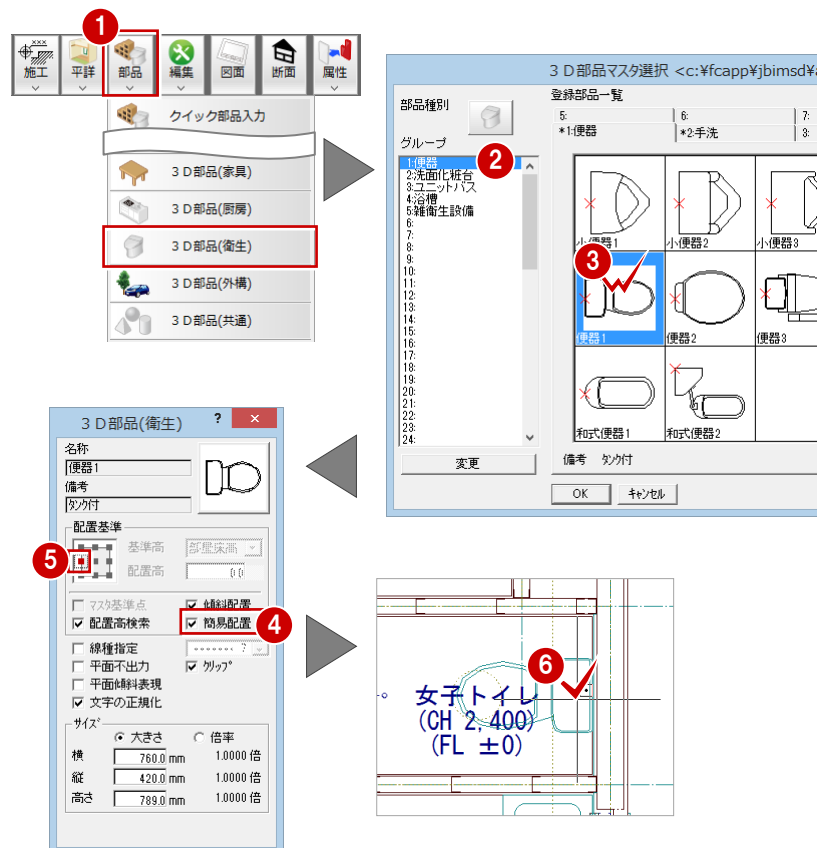
湯沸室に冷蔵庫を入力

- 1 [3D 部品 (厨房)] ダイアログのアイテムの画像をクリックします。
 - 2 [グループ] から「台所機器」をクリックします。
 - 3 一覧で「冷蔵庫 6」をダブルクリックします。
 - 4 [簡易配置] のチェックをはずします。
 - 5 [配置基準] で左上が赤になっていることを確認します。
 - 6 入力方法を「1 点方向」に変更します。
 - 7 [ピック (交点)] をオンにします。
 - 8 ミニキッチンと建具の交点をクリックします。
 - 9 [ドラフタ機能切替] をクリックしてオンにします。
- ※ スペースキーを 1 回押して、ドラフタ機能をオンにすることもできます。
- 10 部品の方向をクリックします。
部品が配置されます。



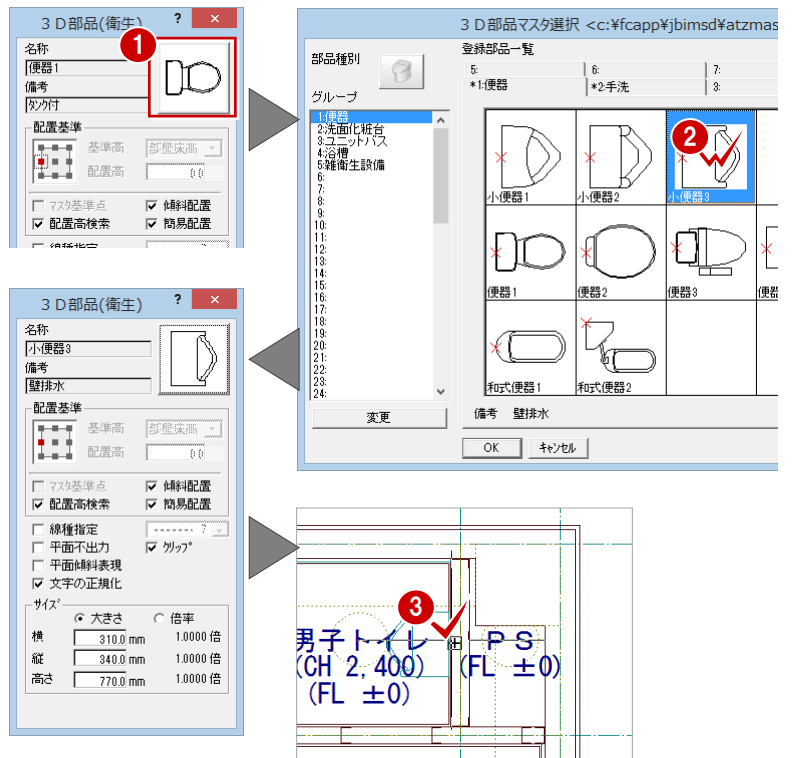
女子トイレに便器を入力

- 1 [部品] メニューから [3D 部品 (衛生)] をクリックします。
- 2 [グループ] から「便器」をクリックします。
- 3 一覧で「便器 1」をダブルクリックします。
- 4 [簡易配置] にチェックを付けます。
- 5 [配置基準] で左中をクリックします。
- 6 女子トイレの右の壁にカーソルを移動し、部品が壁にぴったり付いたら、クリックします。
部品が壁仕上面に合うように配置されます。



男子トイレに便器を入力

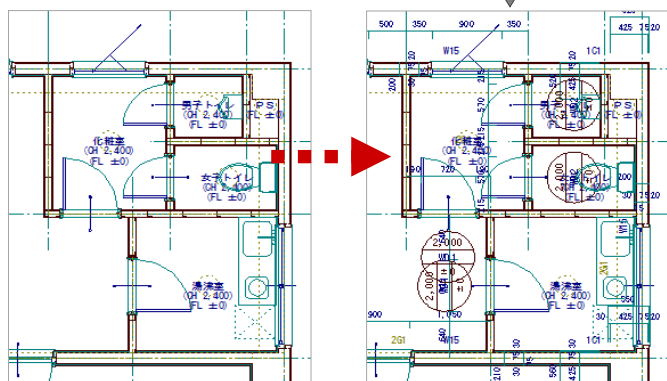
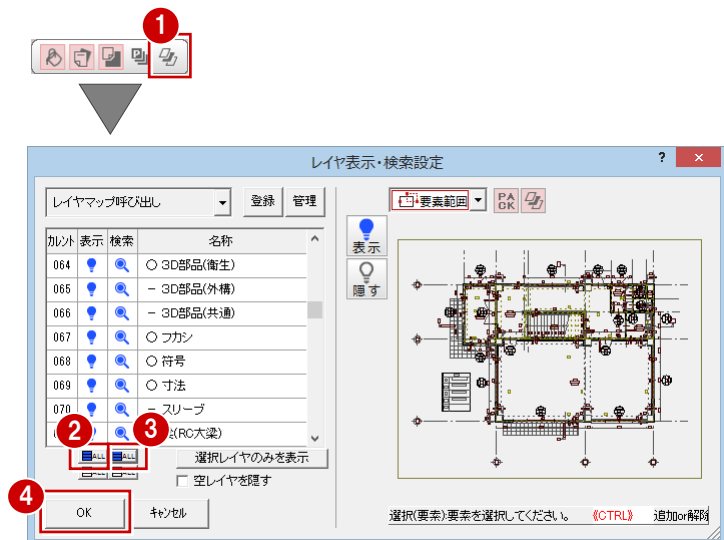
- ① [3D 部品 (衛生)] ダイアログのアイテムの画像をクリックします。
- ② 一覧で「小便器 3」をダブルクリックします。
- ③ 男子トイレの右の壁にカーソルを移動し、部品が壁にぴったり付いたら、クリックします。



データ表示を切り替える

非表示にした記号と寸法線を再度表示します。

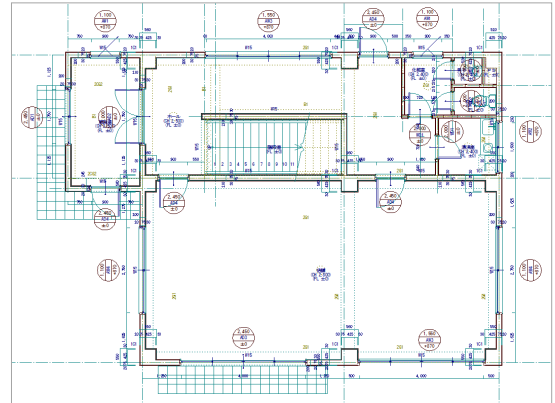
- ① [レイヤ表示・検索設定] をクリックします。
[レイヤ表示・検索設定] ダイアログが開きます。
- ② [表示] の [全 ON] をクリックします。
[表示] が全てオンになります。
- ③ [検索] の [全 ON] をクリックします。
[検索] が全てオンになります。
- ④ [OK] をクリックします。



2-12 記号・寸法の編集

一括作成で作成された記号や部材寸法が重なり合っている場合があります。

ここでは、記号・寸法、部屋名の移動方法について解説します。



【完成図】

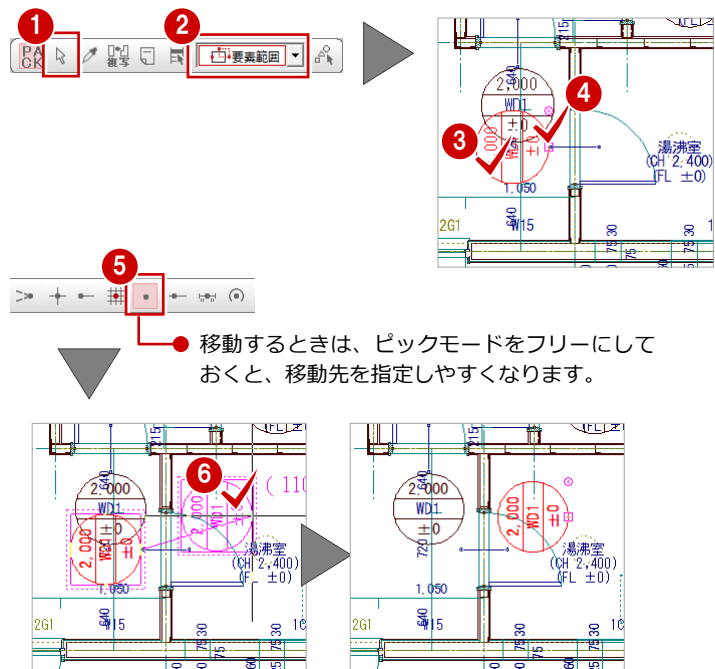
記号・符号を移動する

記号・符号の移動には、任意に移動する方法と、揃えて移動する方法があります。

トラックを使った移動

- ① [対象データ選択] をクリックします。
- ② 選択方法を「要素範囲」に変更します。
- ③ 記号をクリックして選択します。
- ④ 記号上のトラック（□）をクリックします。
- ⑤ [ピック（フリー）] のみをオンにします。
- ⑥ 記号の移動先を指定します。

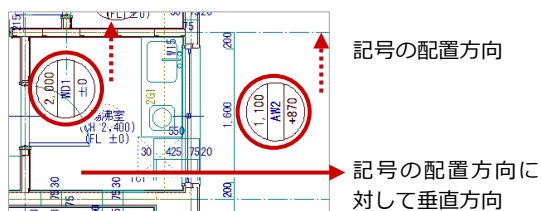
※ 同様に、その他の記号も移動しておきましょう。



指定した位置に揃えて移動

配置方向が同じ記号は、水平または垂直に揃えて移動できます。

例えば、右図の建具記号（2 個）を垂直に揃えて移動するには次のように操作します。



① [編集] メニューから [寸法・記号移動] の [記号/符号揃え] を選びます。

[記号/符号揃え] ダイアログが開きます。



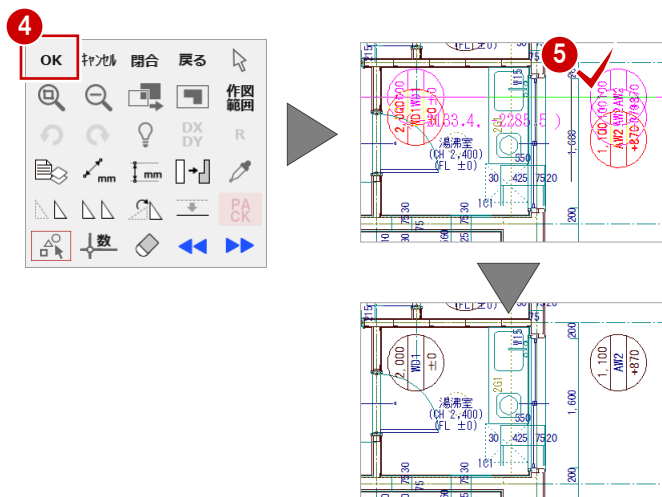
② [垂直レベルで揃える] にチェックを入れます。

③ 揃える記号を順にクリックして選択します。

ラバーバンドが表示され、選択した記号が垂直方向に揃えられます。

④ 右クリックして、ポップアップメニューから [OK] を選びます。

⑤ 移動先をクリックします。
(ピックモード：フリー)



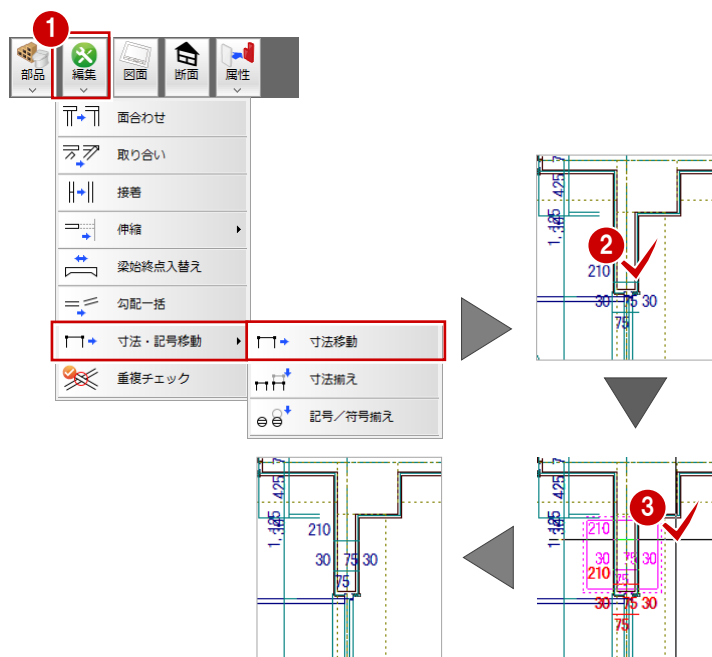
寸法を移動する

コマンドを使った移動

① [編集] メニューから [寸法・記号移動] の [寸法移動] を選びます。

② 部材寸法をクリックします。

③ 移動先をクリックします。
(ピックモード：フリー)

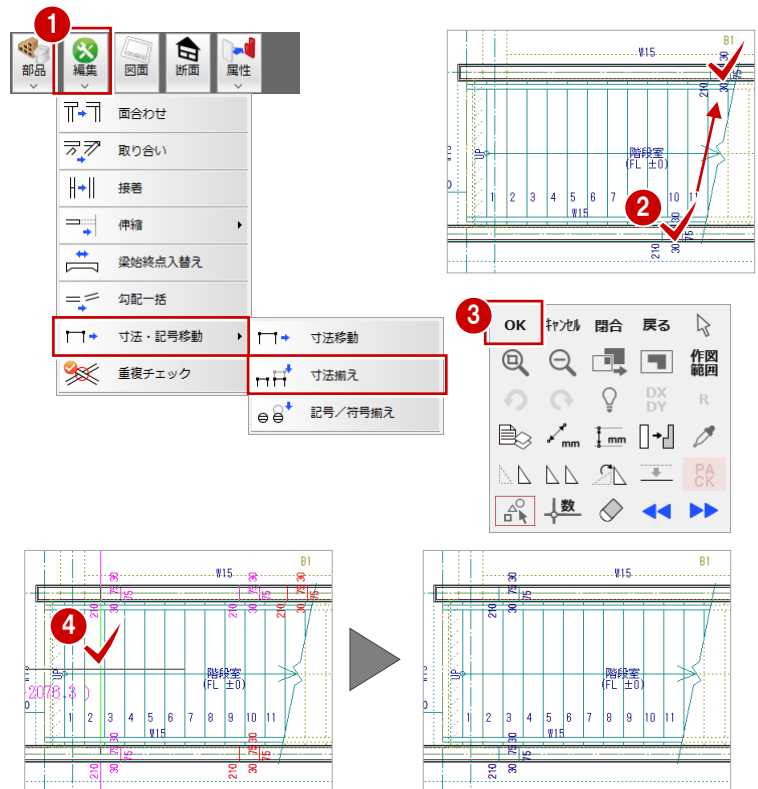


※ 同様に、その他の部材寸法記号も移動しておきましょう。

※ Shift キーを押しながら、移動先をクリックすると、反転移動になります。

指定した位置に揃えて移動

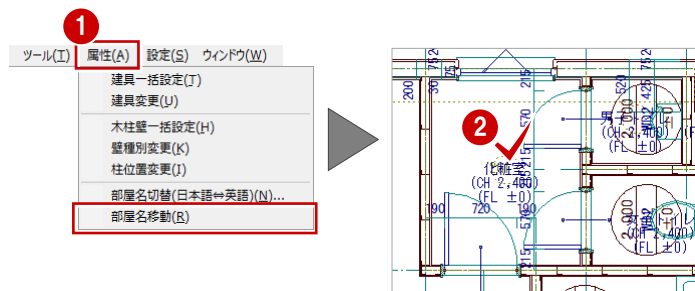
- 1 [編集] メニューから [寸法・記号移動] の [寸法揃え] を選びます。
- 2 揃える部材寸法を順にクリックして選択します。
ラバーバンドが表示され、選択した寸法が垂直方向に揃えられます。
- 3 右クリックして、ポップアップメニューから [OK] を選びます。
- 4 移動先をクリックします。
(ピックモード：フリー)



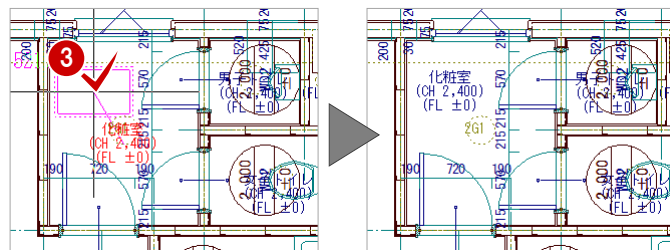
部屋名を移動する

部屋名が記号や部材寸法などと重なって見にくいときは、部屋名を移動します。

- 1 [属性] メニューから [部屋名移動] を選びます。
- 2 部屋名をクリックします。
ここでは「化粧室」を移動します。
- 3 移動先をクリックします。
(ピックモード：フリー)



※ 芯間寸法、ポーチなど部分的に必要な寸法線は、「4 図面を作成する」で入力します。
こちらで、図面として仕上げて印刷します。



2-13 内部仕上表の作成

部屋の仕上仕様（P.13 参照）をもとに、内部仕上表を作成しましょう。

① [部屋] メニューから [内部仕上表] を選びます。

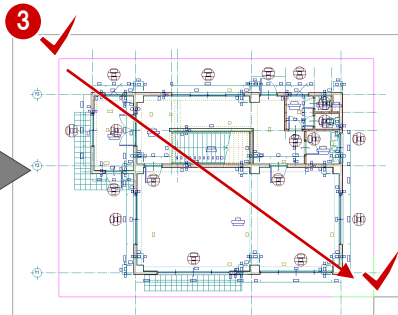


② 選択方法が「矩形」であることを確認します。



③ 仕上表を作成する部屋を含むように始点 ⇒ 対角点をクリックして、範囲を指定します。

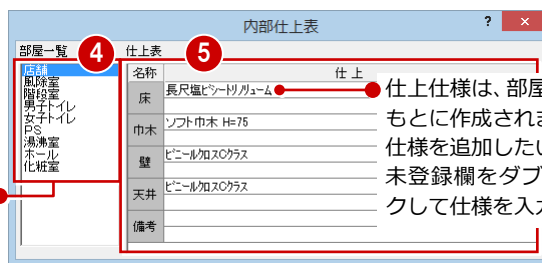
ここでは全部屋を含むように指定します。
[内部仕上表] ダイアログが開きます。



④ [部屋一覧] から仕上表を配置したい部屋を選びます。

⑤ 右側の一覧で、部屋の仕上仕様を確認します。

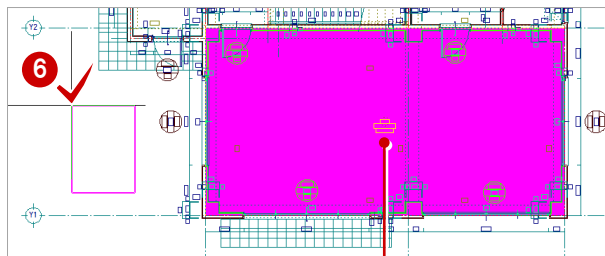
[部屋一覧] には、操作③で選択された部屋が表示されます。



仕上仕様は、部屋の属性をもとに作成されます。仕様を追加したいときは、未登録欄をダブルクリックして仕様を入力します。

上図は、[専用初期設定 (仕上表)] ダイアログの [表示項目数] が「2」の場合のダイアログです。
⇒ P.9 参照

⑥ 仕上表を配置する位置をクリックします。
(ピックモード：フリー)



※ 続けて、別の部屋の仕上表を配置するときには、④～⑥を繰り返します。

※ 配置をやめるときは、ポップアップメニューから [キャンセル] を選びます。

店舗	
床	長尺塩ビシートリノーム
巾木	ソフト巾木 H=75
壁	ビニールクロスCクラス
天井	ビニールクロスCクラス
備考	

● [内部仕上表] ダイアログで選択している部屋がラバーバンドで確認できます。

2-14 断面展開図の確認

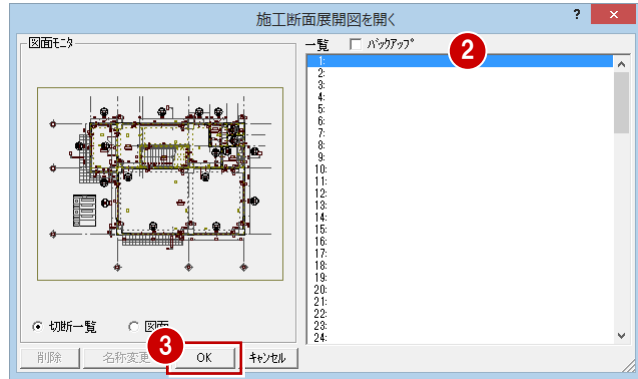
施工断面展開図を開いて、ここまで入力したデータの断面を確認してみましょう。

- ① [断面] をクリックします。

[施工断面展開図を開く] ダイアログが開きます。

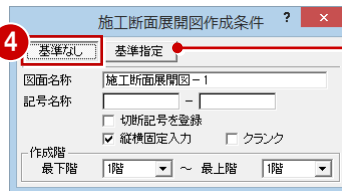


- ② [一覧] で未登録箇所が選ばれていることを確認します。



- ③ [OK] をクリックします。

[施工断面展開図作成条件] ダイアログが開きます。



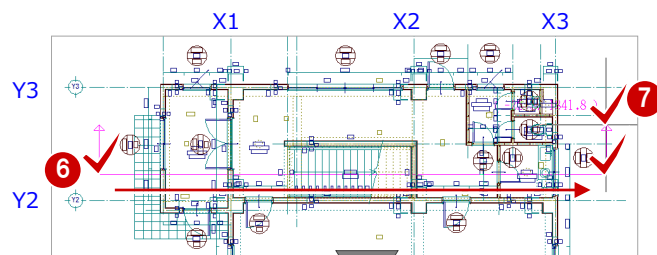
- ④ [基準なし] がオンであることを確認します。

● 切断面を指定するときに基準としたいライン（通り芯や壁・梁などの線）を指定する場合は、[基準指定] をクリックします。

- ⑤ [ピック (フリー)] のみオンになっていることを確認します。

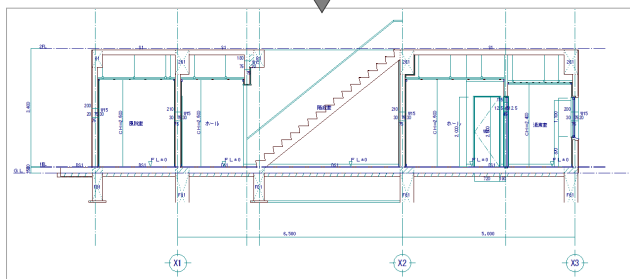


- ⑥ 右図のように、切断面の始点と終点をクリックします。



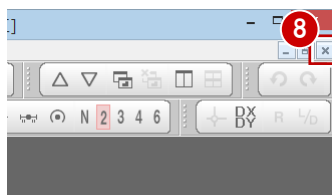
- ⑦ 見えがかりの方向を指定します。

[1 階 施工断面展開図-1] ウィンドウが開いて、断面データが作成されます。

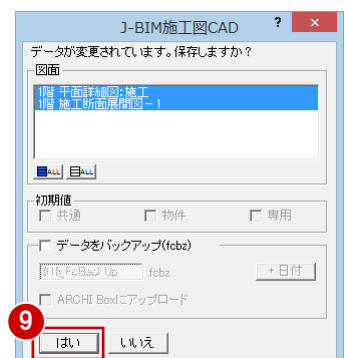


- ⑧ 確認を終えたら、[1 階 施工断面展開図-1] ウィンドウの [閉じる] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

データ保存の確認画面が表示されます。



- ⑨ 保存する図面を確認して、[はい] をクリックします。



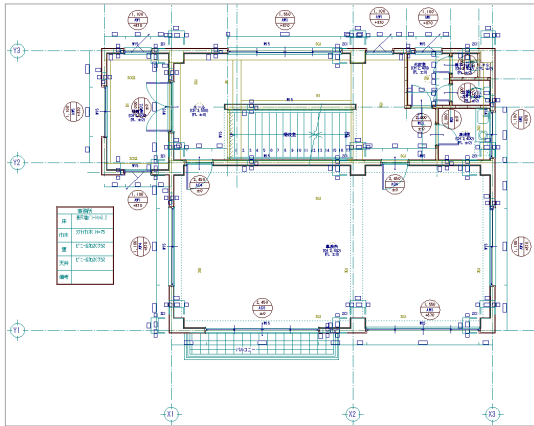
3 平面詳細図 2～4 階を入力する

2 階～4 階平面詳細図を入力しましょう。

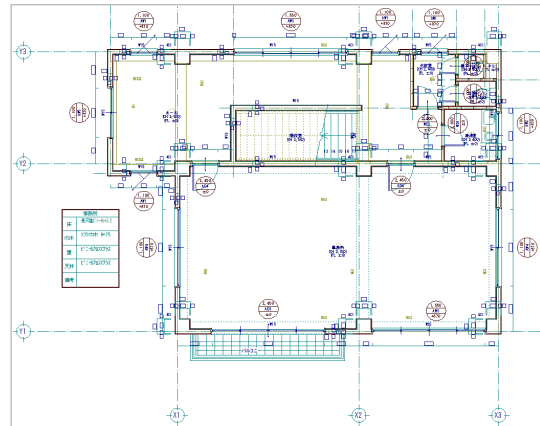
2 階では、RC 躯体図データを読み込み、1 階データのうち 2 階で利用できるデータを複写します。また不要なデータの削除を行い、平面詳細図シンボルのバルコニーを入力します。

3 階は、2 階と同じであるため、複写と一括処理のみを行います。

4 階は、2 階と同様に RC 躯体図データを読み込み、3 階データのうち 4 階で利用できるデータを複写します。また、不要なデータを削除し、間取りを変更します。



【2 階・3 階：完成図】



【4 階：完成図】

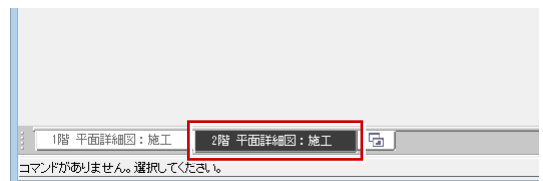
3-1 2 階の入力

作成階を変更する

作成階を 1 階から 2 階に変更します。

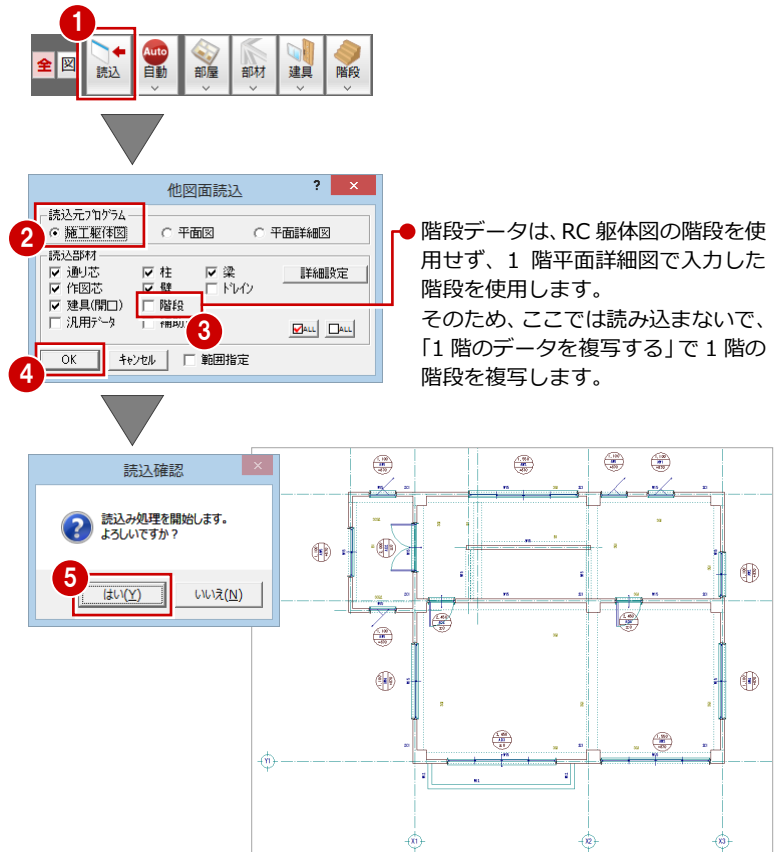
① [上階を開く] をクリックします。

[2 階 平面詳細図：施工] ウィンドウが開きます。



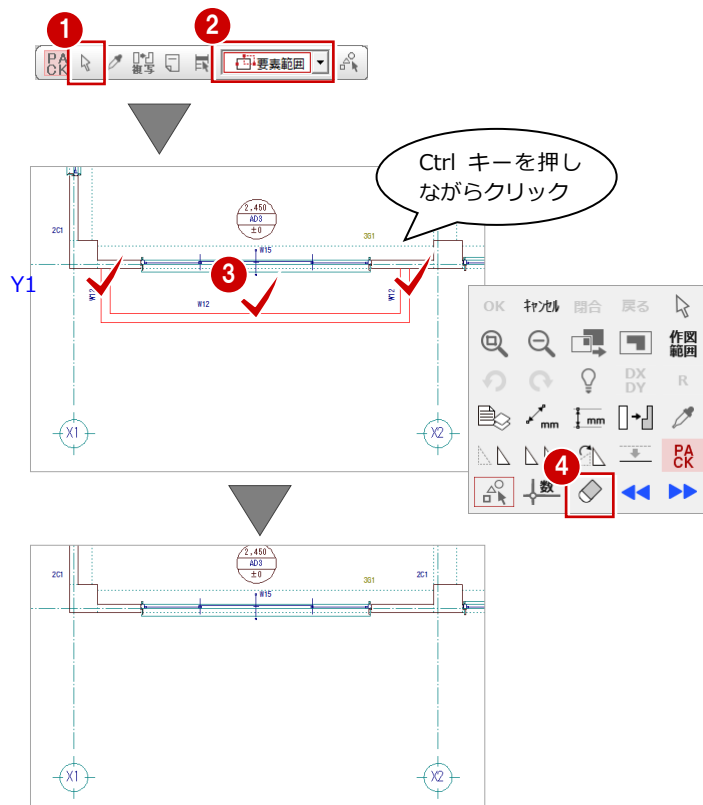
RC 躯体図データを読み込む

- 1 [読込] をクリックします。
- 2 [施工躯体図] にチェックが入っていることを確認します。
- 3 [階段] のチェックをはずします。
ここでは、[通り芯] [作図芯] [建具 (開口)] [柱] [壁] [梁] にチェックが付いていることを確認します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 読み込み開始の確認画面で、[はい] をクリックします。



不要なデータを削除する

- 2 階バルコニー部分の壁 (W12) を削除します。
※ バルコニーは、「バルコニーの入力」で入力します。
- 1 [対象データ選択] をクリックします。
 - 2 選択方法が「要素範囲」であることを確認します。
 - 3 Ctrl キーを押しながら、右図に示す壁 (W12) をクリックします。
 - 4 右クリックして、ポップアップメニューから [削除] を選びます。
選択した 3 箇所所の壁 (W12) と壁符号が削除されます。



1 階のデータを複写する

① [ファイル] メニューから [階複写] を選びます。

[図面複写 (平面詳細図)] ダイアログが開きます。

② [図面] から「○1階」をクリックします。

③ 部材一覧から「作図芯」「部屋」「壁」「開口 (木製戸)」「階段・踊場」「3D 部品 (厨房)」「3D 部品 (衛生)」を選びます。

④ [詳細] をクリックします。

[詳細設定] ダイアログが開きます。

⑤ ここでは、LGS 壁 (1) だけを複写するので、一覧から「LGS (1)」を選びます。

⑥ [OK] をクリックします。

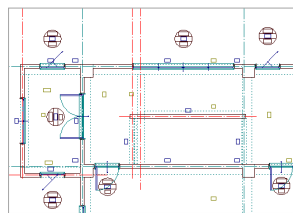
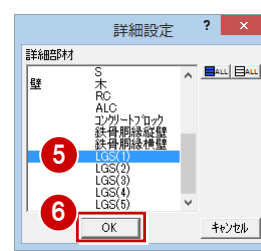
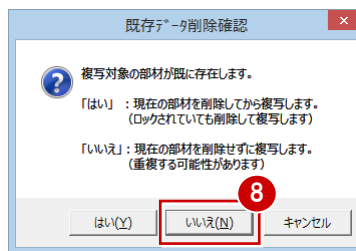
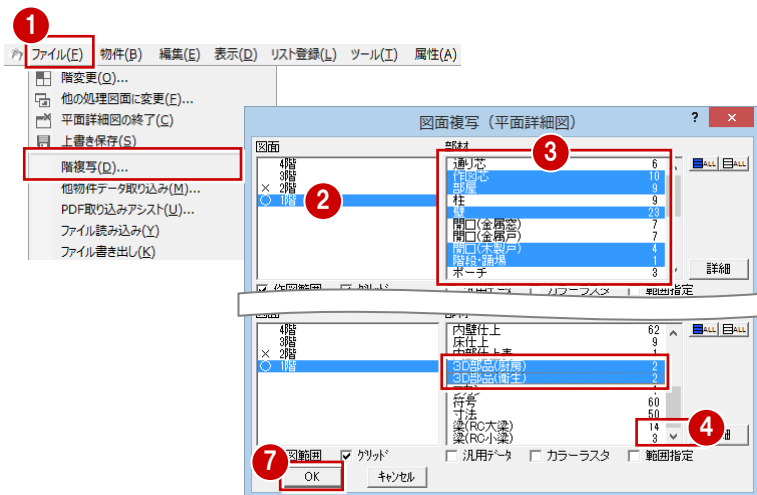
[図面複写 (平面詳細図)] ダイアログに戻ります。

⑦ [OK] をクリックします。

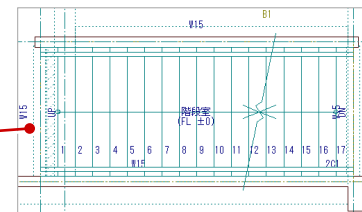
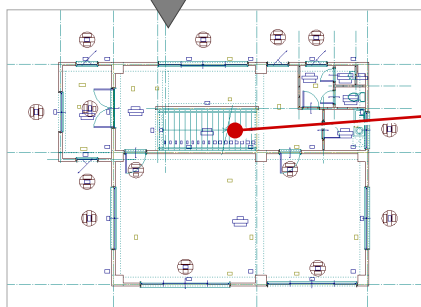
既存データの削除画面が開きます。

⑧ 確認画面で [いいえ] をクリックします。

既存の作図芯を削除せずに、指定した 1 階



確認画面が表示された場合、削除の対象となる既存の部材 (ここでは、作図芯) が選択状態になります。

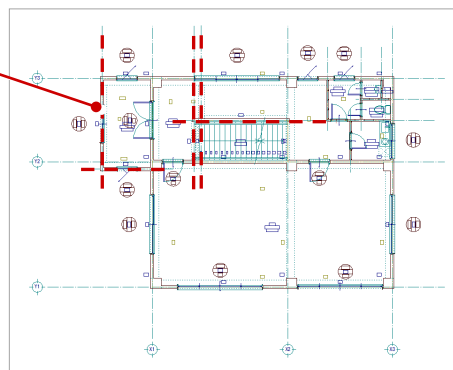


※ 1 階の階段を階複写すると、自動的に階段属性が上向き・下向き導線に変更されます。

※ 操作⑧の確認画面で [はい] をクリックすると、既存の作図芯を削除して 1 階の作図芯を複写します。

その結果、既存の作図芯と複写した作図芯 (右図の 5 本) が重複するので、次にこれらの作図芯を削除します。

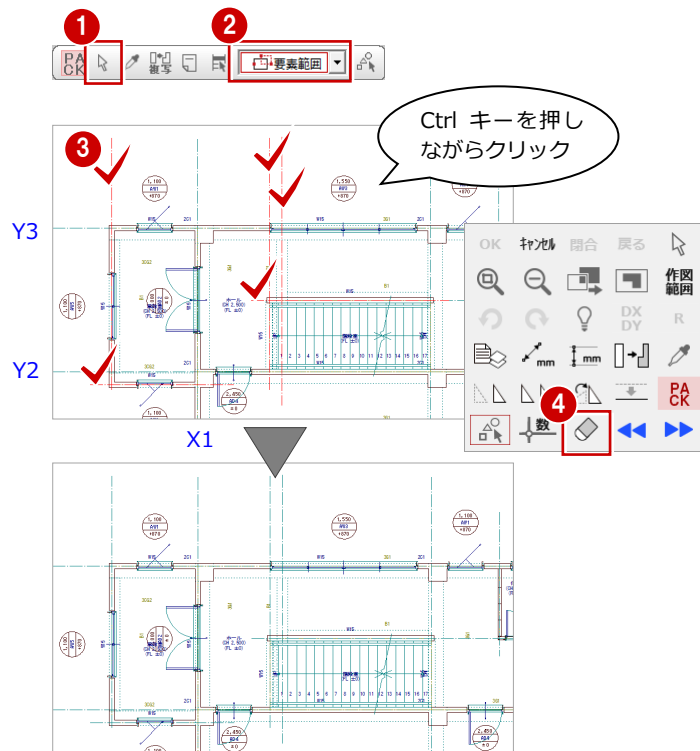
重複している作図芯



不要なデータを削除する

階複写によって重複している作図芯（5本）を削除します。

- 1 [対象データ選択] をクリックします。
- 2 選択方法が「要素範囲」であることを確認します。
- 3 Ctrl キーを押しながら、右図に示す作図芯をクリックします。
- 4 右クリックして、ポップアップメニューから [削除] を選びます。
CAD 画面の表示上に変化はありませんが、重複していた作図芯が削除されます。

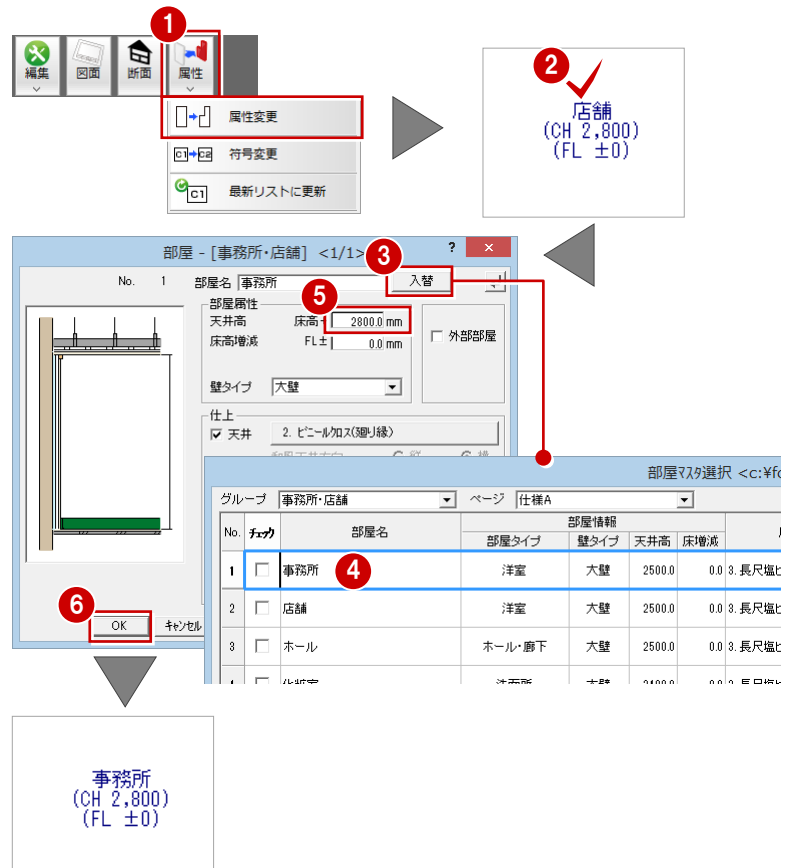


部屋の属性を変更する

2 階の部屋「店舗」を「事務所」、「風除室」を「喫煙室」に変更します。
また、「階段室」の属性を変更します。

「店舗」を「事務所」に変更

- 1 [属性] から [属性変更] をクリックします。
(選択モード：要素範囲)
- 2 「店舗」をクリックします。
[部屋] ダイアログが開きます。
- 3 [入替] をクリックします。
[部屋マスタ選択] ダイアログが開きます。
- 4 一覧から「事務所」をダブルクリックします。
- 5 「事務所」の設定から [天井高] が「2500」となるので、[天井高] を「2800」に変更します。
- 6 [OK] をクリックします。

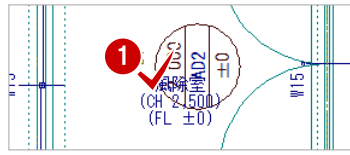


3 平面詳細図 2~4 階を入力する

「風除室」を「喫煙室」に変更

「喫煙室」は、「事務所」の仕上仕様と同様とするため、ここでは部屋マスタから「事務所」を選び、部屋名だけを変更します。

① 「風除室」をクリックします。

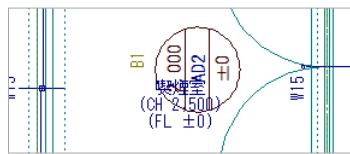
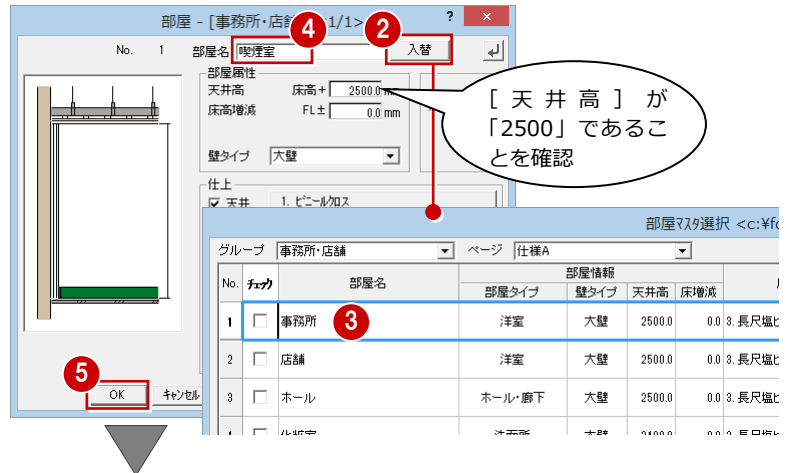


② [入替] をクリックします。

③ 一覧から「事務所」をダブルクリックします。

④ [部屋名] を「喫煙室」に変更します。

⑤ [OK] をクリックします。



「階段室」の属性変更

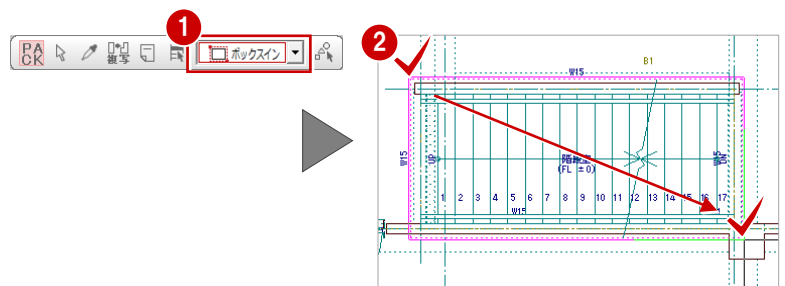
1 階から複写した「階段室」には床があるので、部屋属性を床なしに変更します。

※ 階段部分は、部屋と階段データなど異なるデータが重複しているため、ここでは、選択データから種別を指定して属性を変更します。

① 選択方法を「ボックスイン」に変更します。

② 「階段室」を囲むように始点 ⇒ 対角点をクリックします。

[属性変更] ダイアログが開きます。



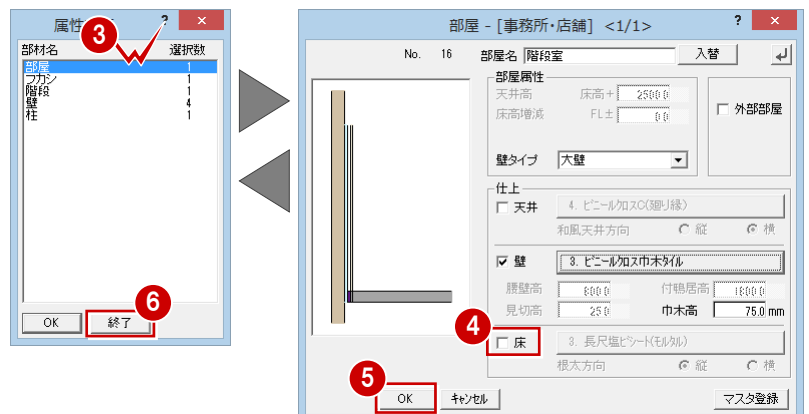
③ 一覧に選択されたデータが表示されるので、「部屋」をダブルクリックします。
[部屋] ダイアログが開きます。

④ [床仕上] のチェックをはずします。

⑤ [OK] をクリックします。

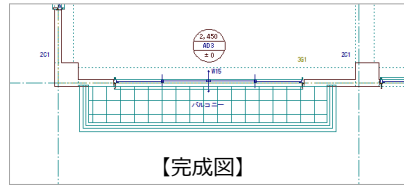
部屋の属性が変更され (CAD 画面の表示上に変化はありません)、[属性変更] ダイアログに戻ります。

⑥ [終了] をクリックします。



バルコニーを入力する

RC 躯体図から読み込んだ通り芯をもとに、バルコニーを入力します。



- 1 [平詳] メニューから [外部] の [バルコニー] を選びます。

[バルコニー] ダイアログが開きます。



- 2 [配置基準] が「芯基準」であることを確認します。

- 3 [手摺属性] をクリックします。

[手摺設定] ダイアログが開きます。

- 4 [壁] がオンになっていることを確認します。

- 5 [壁幅] を「120」に変更します。

- 6 [OK] をクリックします。

- 7 ピックモードを [ピック対象 (芯)] に変更します。

- 8 [クリック位置からの相対座標入力] をクリックしてオンにします。

- 9 通り芯の交点をクリックして、バルコニーの始点を指定します。

(入力方法: 矩形)

- 10 [dx] に「560」、[dy] に「0」と入力します。

- 11 [OK] をクリックします。

- 12 [クリック位置からの相対座標入力] をクリックしてオンにします。

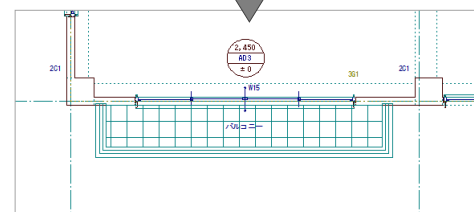
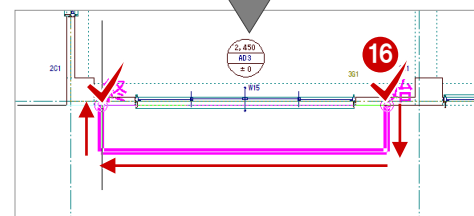
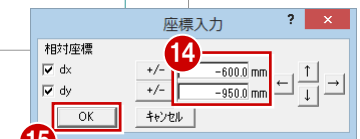
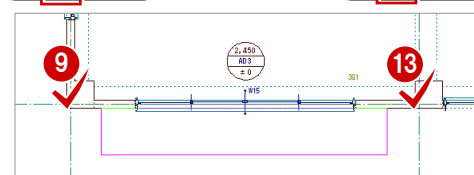
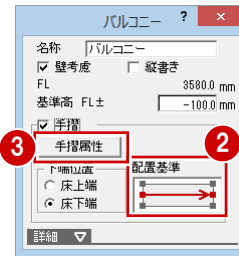
- 13 通り芯の交点をクリックして、バルコニーの終点を指定します。

- 14 [dx] に「-600」、[dy] に「-950」と入力します。

- 15 [OK] をクリックします。

- 16 手摺壁の開始点 ⇒ 終了点を指定します。

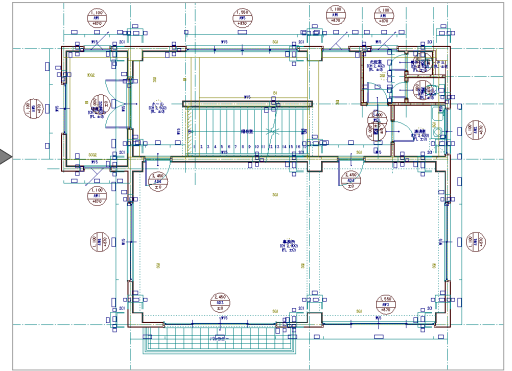
【完成図】



一括処理を実行する

部屋データの仕上属性をもとに内壁仕上、床仕上を自動作成します。また、RCの重なり部分の包絡と部材寸法や記号を一括して作成します。

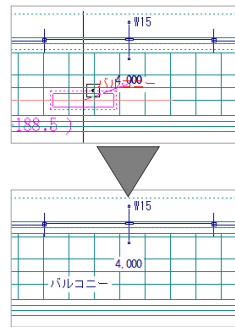
- ① [自動] メニューから [一括作成] を選びます。
 - ② [一括作成] ダイアログが開きます。
 - ③ [作成範囲指定] のチェックがはずれていることを確認します。
 - ④ [OK] をクリックします。
- 一括処理が実行されます。



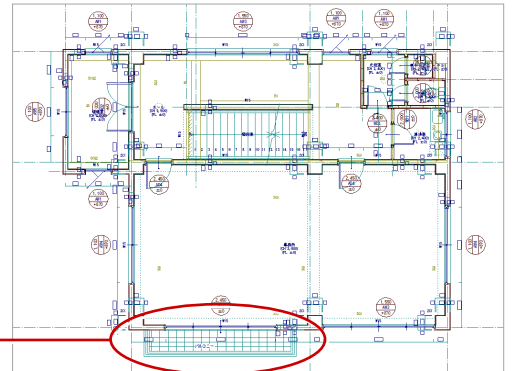
記号・寸法を編集する

一括処理により作成された記号や寸法線が重なり合っている場合は、トラッカーや編集機能を使用して記号や寸法線を移動しましょう。
⇒ P.27「記号・寸法の編集」参照

※「バルコニー」の文字も部屋名と同様に移動できます。文字列と重なっている目地（ハッチング）が自動で削除されます。



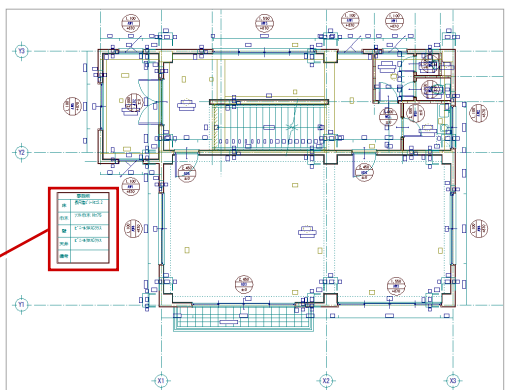
【部屋名移動】



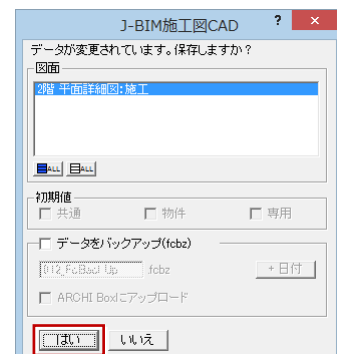
内部仕上表を作成する

部屋の仕上仕様をもとに、内部仕上表を作成しましょう。 ⇒ P.30「内部仕上表の作成」参照

ここでは、「事務所」の内部仕上表を配置しています。



2階 平面詳細図が入力できたら、データを保存しておきましょう。

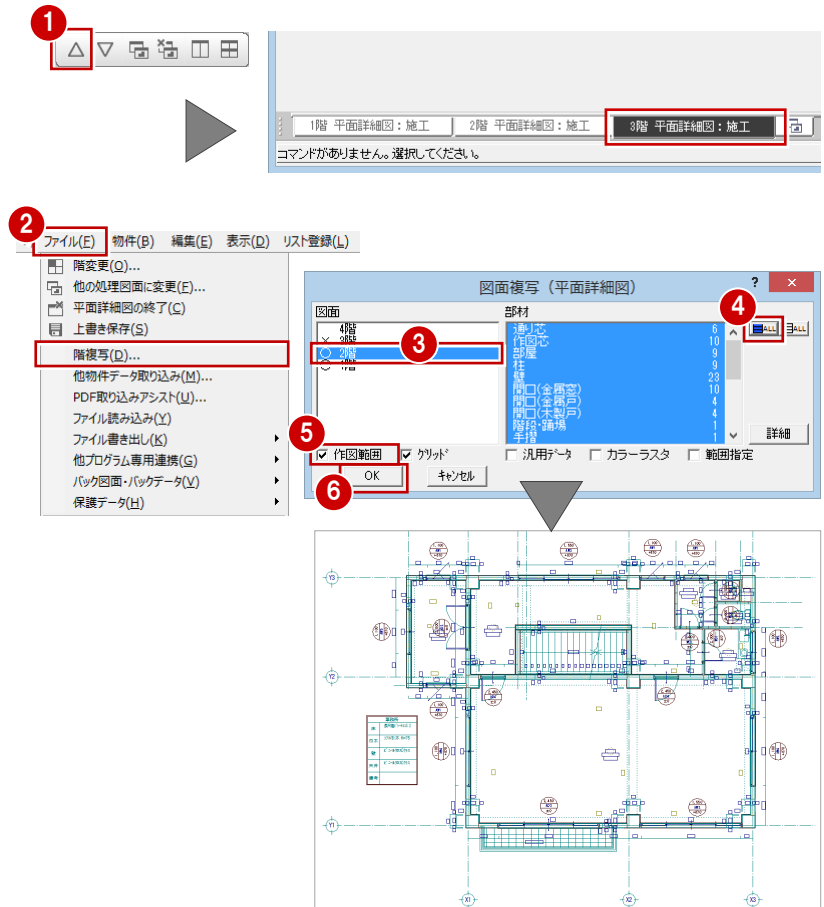


3-2 3 階の入力

作成階を変更する

3 階は 2 階と同じ構造になっています。作成階を 2 階から 3 階に変更し、2 階の全データを複製しましょう。

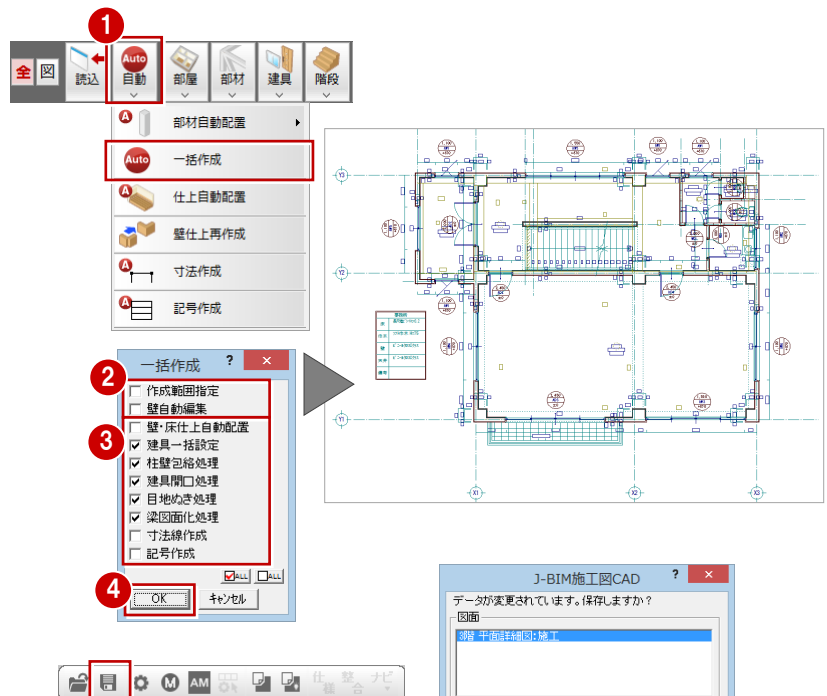
- [上階を開く] をクリックします。
[3 階 平面詳細図: 施工] ウィンドウが開きます。
- [ファイル] メニューから [階複写] を選びます。
[図面複写 (平面詳細図)] ダイアログが開きます。
- [図面] から「○ 2 階」をクリックします。
- [全 ON] をクリックします。
[部材] の全データが選択されます。
- [作図範囲] にチェックが付いていることを確認します。
- [OK] をクリックします。



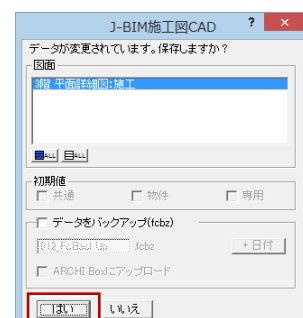
一括作成を実行する

階複写を行うと、RC の重なり部分の包絡が処理されていない状態で複写されるので、ここでは包絡処理や目地ぬき処理、梁図面化処理を行います。

- [自動] メニューから [一括作成] を選びます。
[一括作成] ダイアログが開きます。
- [作成範囲指定] [壁自動編集] のチェックがはずれていることを確認します。
- [壁・床仕上自動配置] [寸法線作成] [記号作成] のチェックをはずします。
- [OK] をクリックします。
一括作成が実行されます。



3 階 平面詳細図が入力できたら、データを保存しておきましょう。

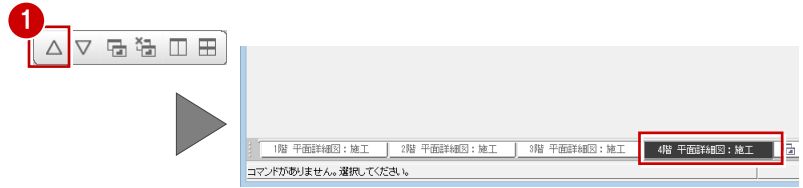


3-3 4 階の入力

作成階を変更する

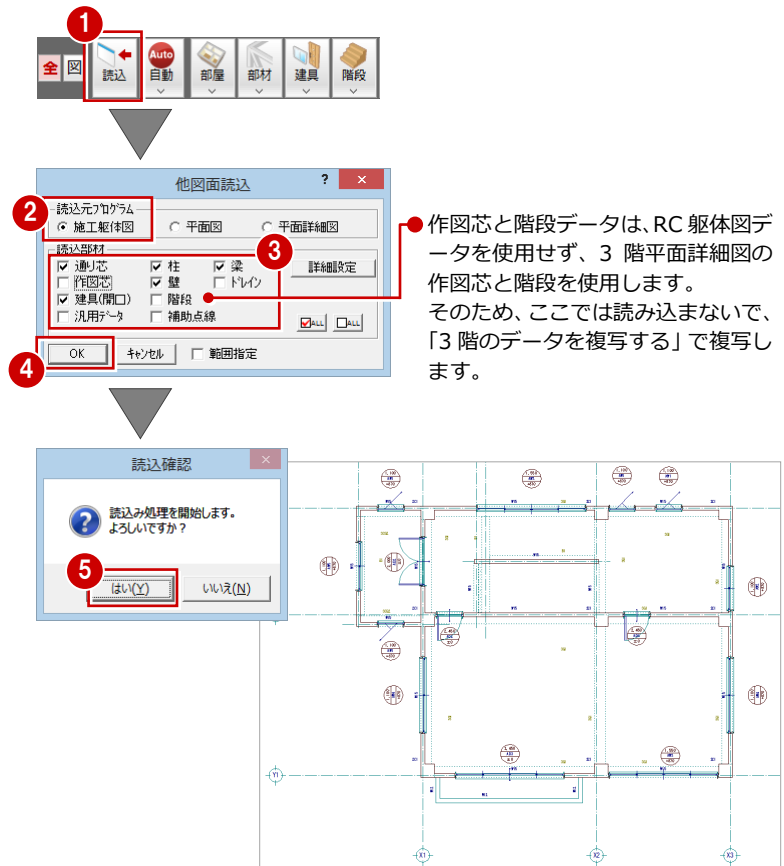
作成階を 3 階から 4 階に変更します。

- 1 [上階を開く] をクリックします。
[4 階 平面詳細図：施工] ウィンドウが開きます。



RC 躯体図データを読み込む

- 1 [読込] をクリックします。
- 2 [施工躯体図] にチェックが入っていることを確認します。
- 3 [作図芯] のチェックをはずします。
ここでは、[通り芯] [建具（開口）] [柱] [壁] [梁] にチェックが付いていることを確認します。
- 4 [OK] をクリックします。
- 5 読み込み開始の確認画面で、[はい] をクリックします。

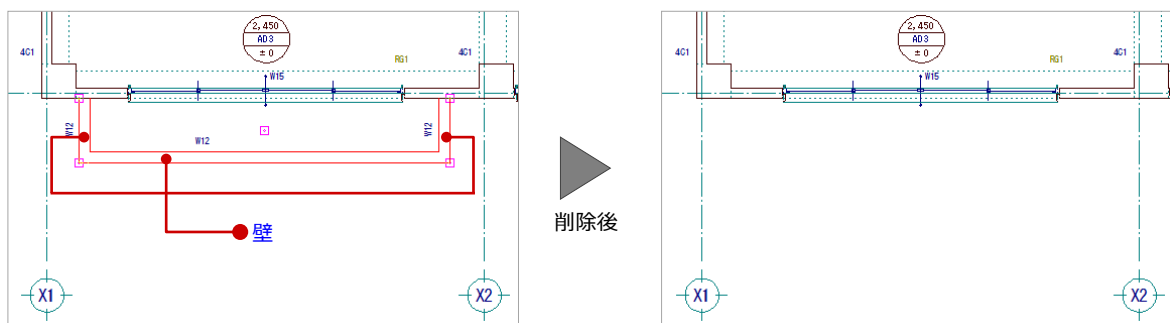


不要なデータを削除する

P.33「不要なデータを削除する」を参照して、4 階で使用しない部材を削除します。部材を削除すると、同時に記号、符号、部材寸法線も削除されます。

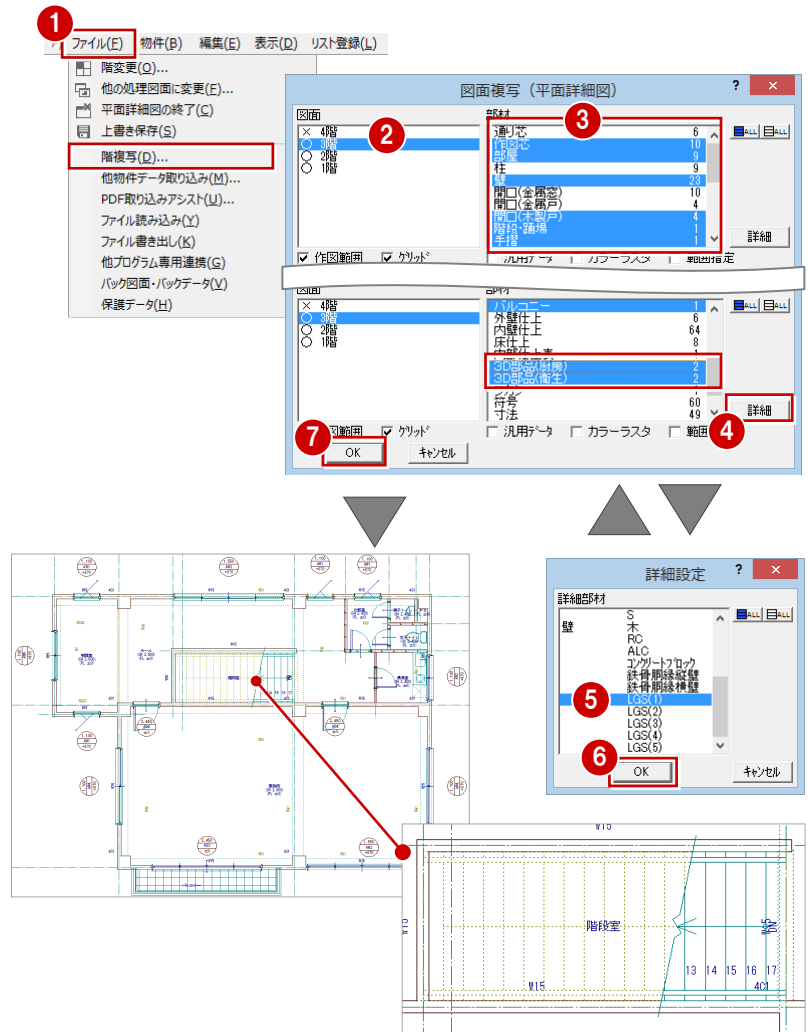
- バルコニー部分の削除

ここでは、次の部材を削除します。



3 階のデータを複製する

- 1 [ファイル] メニューから [階複製] を選びます。
[図面複写 (平面詳細図)] ダイアログが開きます。
- 2 [図面] から「○3階」をクリックします。
- 3 部材一覧から「作図芯」「部屋」「壁」「開口 (木製戸)」「階段・踊場」「手摺」「バルコニー」「3D 部品 (厨房)」「3D 部品 (衛生)」を選びます。
- 4 [詳細] をクリックします。
[詳細設定] ダイアログが開きます。
- 5 一覧から「LGS (1)」を選びます。
- 6 [OK] をクリックします。
[図面複写 (平面詳細図)] ダイアログに戻ります。
- 7 [OK] をクリックします。



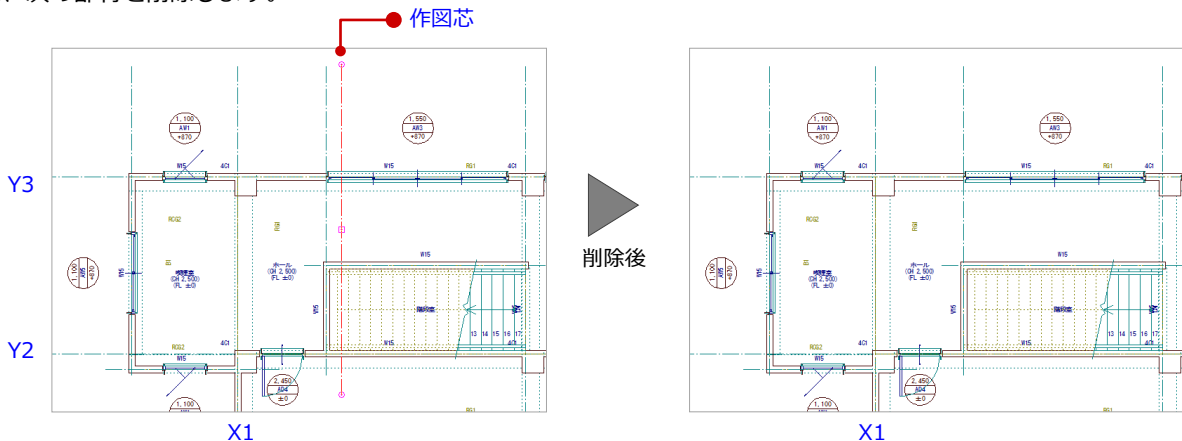
※ 3 階の階段を階複製すると、自動的に階段属性が下向き導線、立体・断面不出力に変更されます。

不要なデータを削除する

P.33「不要なデータを削除する」を参照して、4 階で使用しない部材を削除します。部材を削除すると、同時に記号、符号、部材寸法線も削除されます。

- ホール部分の削除

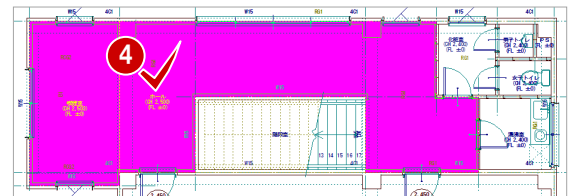
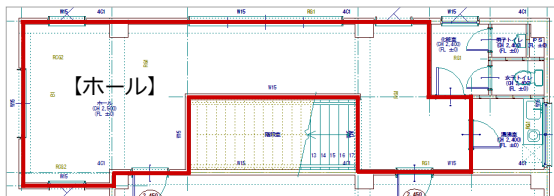
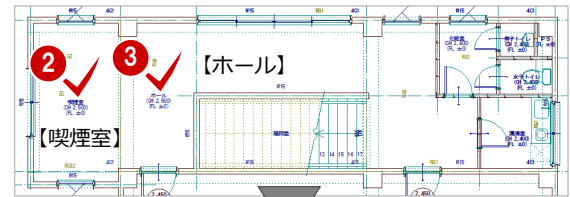
ここでは、次の部材を削除します。



間取りを変更する

「ホール」の部屋領域を変更します。
ここでは、「喫煙室」を「ホール」に合成します。

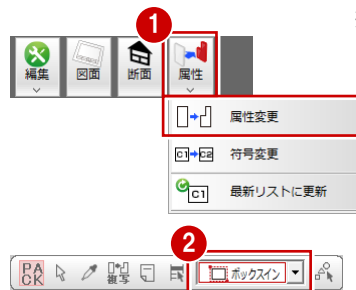
- 1 [変形] メニューから [領域合成] を選びます。
- 2 合成する部屋「喫煙室」をクリックします。
- 3 合成する部屋「ホール」をクリックします。
(指定順序は関係ありません)
合成対象の部屋領域が塗り潰されます。
- 4 「ホール」(部屋属性を引き継ぐ方の部屋) をクリックします。
「喫煙室」が「ホール」の領域に合成されます。



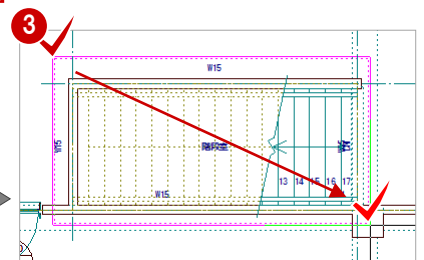
部屋の属性を変更する

3階から複製した「階段室」には天井がないので、部屋属性を天井ありに変更します。

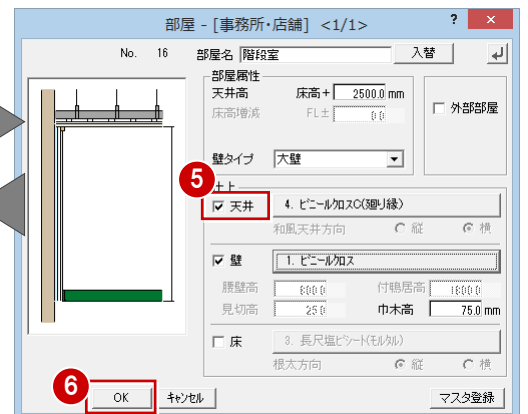
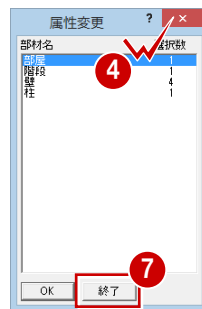
- 1 [属性] から [属性変更] をクリックします。
- 2 選択方法を「ボックスイン」に変更します。
- 3 「階段室」を囲むように始点 ⇒ 対角点をクリックします。
[属性変更] ダイアログが開きます。



※ 階段部分は部屋と階段データなど重複しているため、選択データから種別を指定して属性を変更する操作を解説します。



- 4 「部屋」をダブルクリックします。
[部屋] ダイアログが開きます。
- 5 [天井仕上] にチェックを付けます。
- 6 [OK] をクリックします。
部屋の属性が変更され (CAD 画面の表示上に変化はありません)、[属性変更] ダイアログに戻ります。
- 7 [終了] をクリックします。



一括作成を実行する

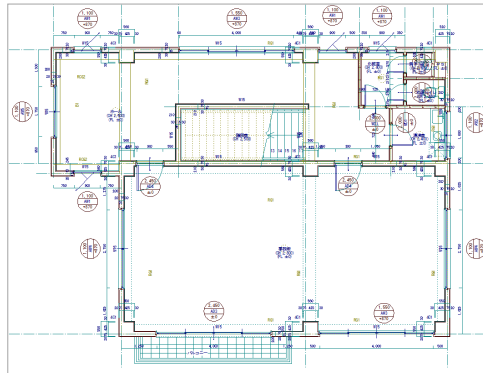
部屋データの仕上属性をもとに内壁仕上、床仕上を自動作成します。また、RCの重なり部分の包絡と部材寸法や記号を一括して作成します。

- 1 [自動] メニューから [一括作成] を選びます。
[一括作成] ダイアログが開きます。
- 2 [作成範囲指定] のチェックがはずれていることを確認します。
- 3 [OK] をクリックします。
一括作成が実行されます。



記号・寸法を編集する

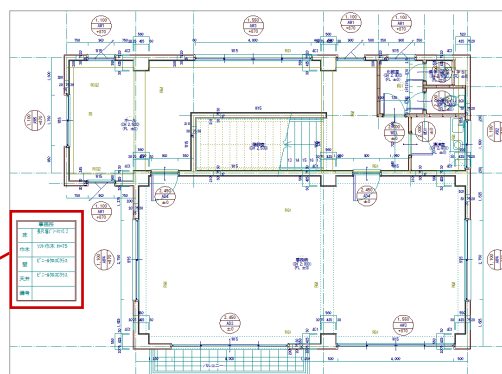
一括作成により作成された記号や寸法線が重なり合っている場合は、トラッカーや編集機能を使用して記号や寸法線を移動しましょう。
⇒ P.27「記号・寸法の編集」参照



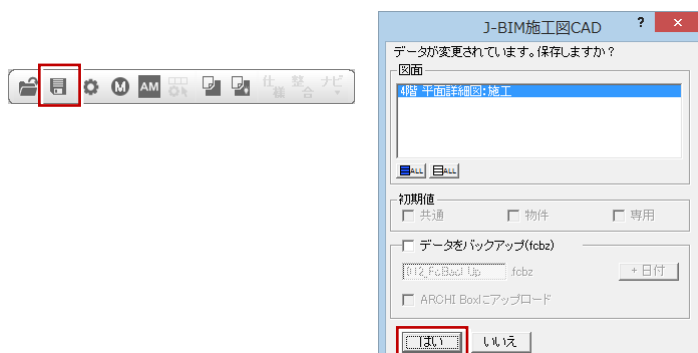
内部仕上表を作成する

部屋の仕上仕様をもとに、内部仕上表を作成しましょう。⇒ P.30「内部仕上表の作成」参照

ここでは、「事務所」の内部仕上表を配置しています。

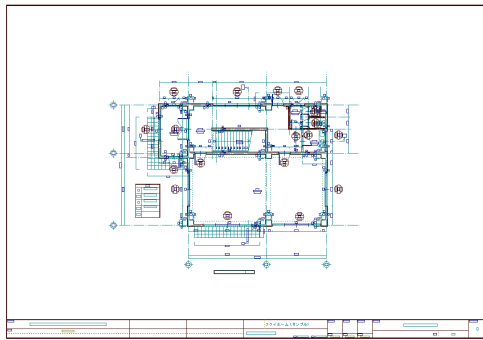


4階 平面詳細図が入力できたら、データを保存しておきましょう。

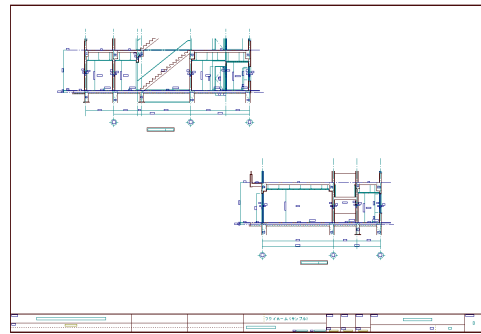


4 図面を作成する

平面詳細図のデータから平面詳細図、断面展開図を作成して、印刷しましょう。



【1階 平面詳細図】



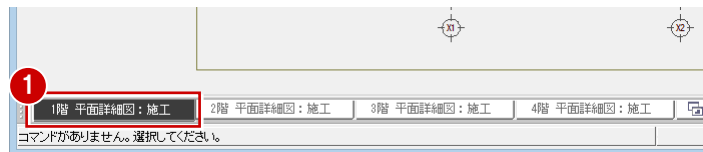
【X-X'・Y-Y' 断面展開図】

4-1 初期設定の確認

1階 平面詳細図を開き、図面作成時（平面詳細図 ⇒ 汎用図面）と断面展開図作成時の通り芯間の寸法線に関する初期設定を確認しましょう。

作成階を変更する

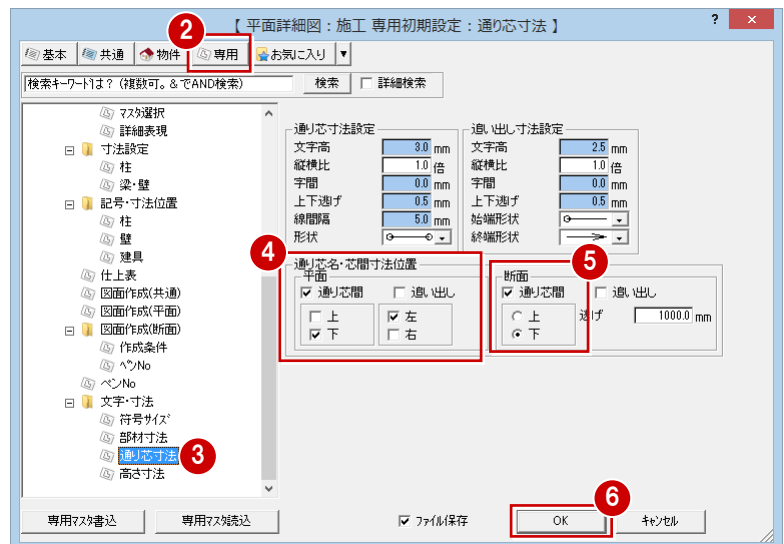
- 1階 平面詳細図：施工] タブをクリックします。
[1階 平面詳細図：施工] のウィンドウが開きます。
- [他のウィンドウを閉じる] をクリックして、その他のウィンドウを閉じておきます。



専用初期設定を確認する

通り寸法設定の確認

- [設定] をクリックします。
[設定] ダイアログが開きます。
- [専用] をクリックします。
- ツリーから「文字・寸法」の「通り芯寸法」を選びます。
- [通り芯名・芯間寸法線位置] の [平面] の [通り芯間] [下] [左] にチェックが付いていることを確認します。
- [断面] の [通り芯間] [下] にチェックが付いていることを確認します。
- ここでは、設定を変更していないため、[キャンセル] をクリックします。



※ 設定を変更した場合は、[ファイル保存] にチェックが付いていることを確認して、[OK] をクリックします。

4-2 図面作成の流れ

断面展開図の図面（汎用図面）を作成する場合には、平面詳細図に断面展開図の切断記号を描画したいときは、平面詳細図の図面（汎用図面）を作成する前に、断面展開図の作成が必要になります。ここでは、平面詳細図に切断記号を描画するため、右の流れで解説します。

※「図面の作成」とは、[図面作成]で新規汎用図面を作成することを指します。ここでの「断面展開図の作成」とは、[施工断面展開図を開く]で断面展開図を作成することを指します。

【平面詳細図に切断記号を描画する場合】
(例) 断面展開図の作成

図面の作成（平面詳細図）

図面の作成（断面展開図）

4-3 断面展開図の作成

1 階 平面詳細図の X 軸・Y 軸に対する断面展開図を作成してみましょう。

X 軸に対する断面を開く

① [断面] をクリックします。
[施工断面展開図を開く] ダイアログが開きます。

② [一覧] の未登録欄をダブルクリックします。

③ ここでは、次のようにダイアログを設定します。

[図面名称] : 「X-X' 断面展開図」

[記号名称] : 「X-X' 」

[切断記号を登録] : オン

[最下階] : 「1 階」

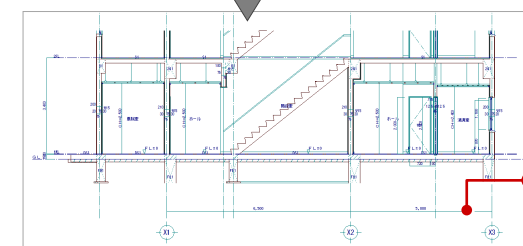
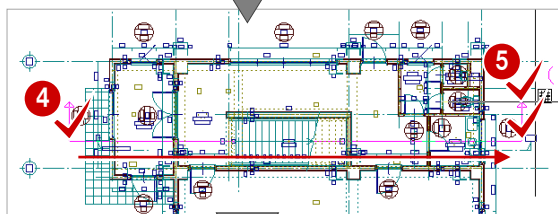
[最上階] : 「1 階」

④ 切断線の始点 ⇒ 終点をクリックします。

⑤ 見えがかりの方向をクリックします。
ウィンドウが開いて、X 軸に対する断面データが作成されます。

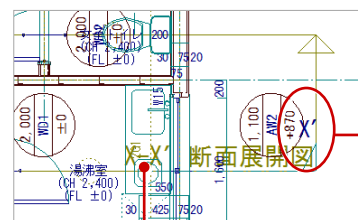
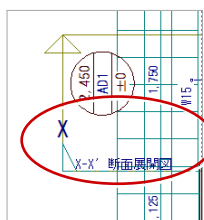


[切断記号を登録] にチェックを付けておくと、平面詳細図に切断記号が登録されます。



下側の通り芯間に芯間寸法が作成されます。
⇒ P.44 参照

【平面詳細図での表現】



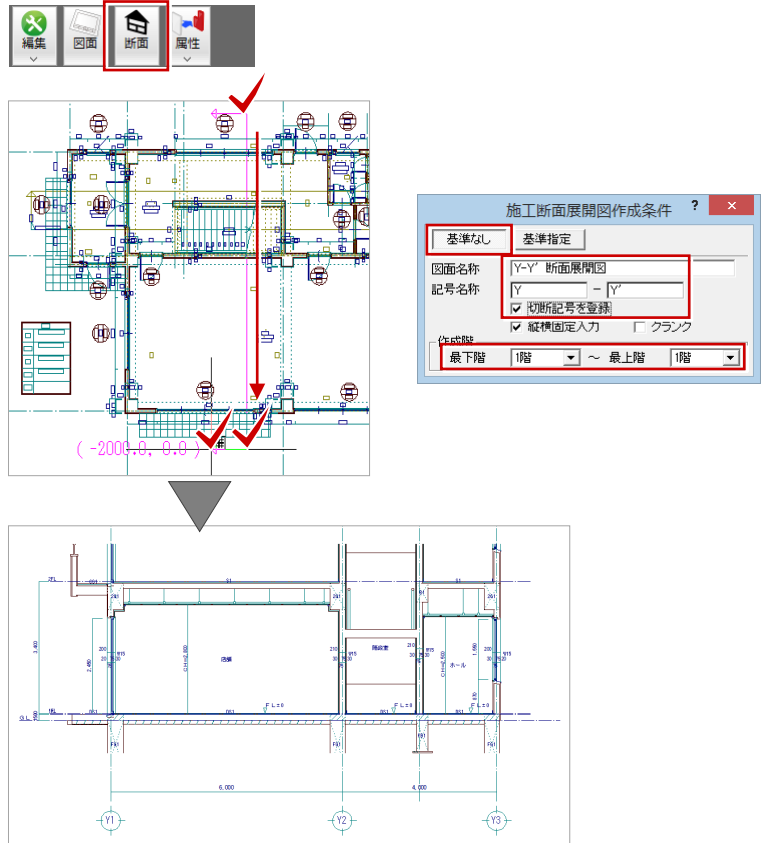
赤丸の切断線と記号が登録されます。

断面展開図を開いているときに表示される文字列で、この文字列は登録されません。

4 図面を作成する

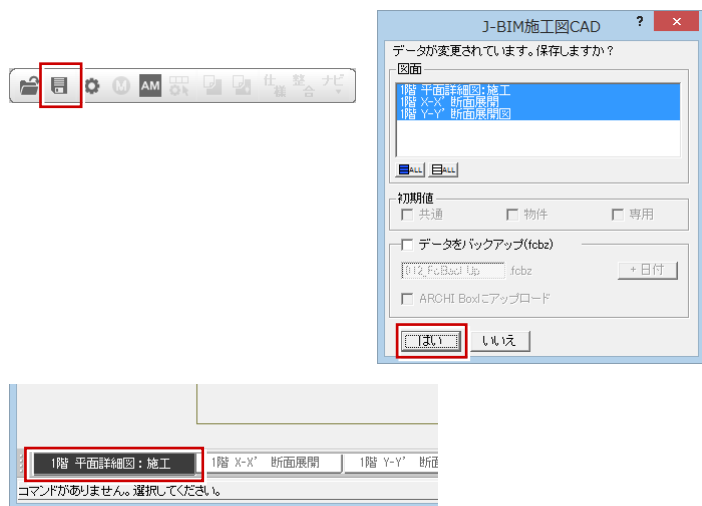
Y 軸に対する断面を開く

[1階 平面詳細図：施工] ウィンドウに戻り、X軸と同様な操作で、Y軸に対する断面（Y-Y'断面展開図）を作成します。



断面展開図を作成したら、データを保存しておきましょう。

また、[1階 平面詳細図：施工] タブをクリックして、[1階 平面詳細図：施工] ウィンドウに戻しておきましょう。



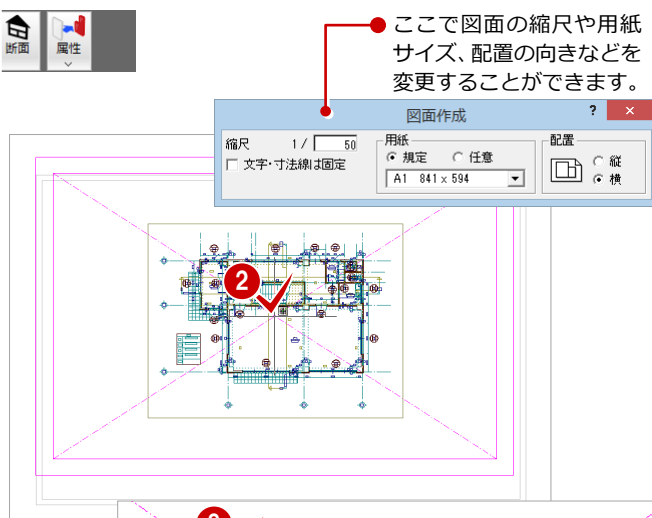
4-4 図面の作成（平面詳細図）

1 階 平面詳細図の図面を作成しましょう。

- 1 [図面] をクリックします。
[図面作成] ダイアログが開きます。



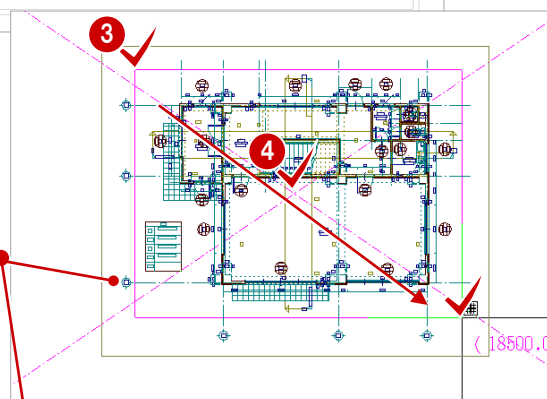
- 2 用紙範囲の中心をクリックします。



- 3 躯体データが収まるように作図領域を指定します。

- 4 図面を配置するときの基準点をクリックします。

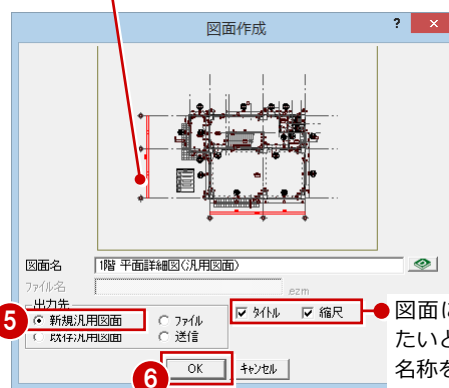
範囲を通り芯符号が含まれていない場合でも、図面作成時に自動的に通り芯を延長して、通り芯符号を作成します。



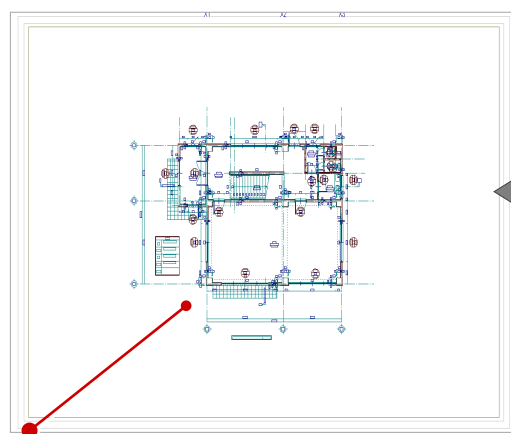
- 5 出力先が [新規汎用図面] になっていることを確認します。

- 6 [OK] をクリックします。
新しい汎用図面のウィンドウが開きます。

- 7 図面の配置位置をクリックします。

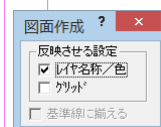
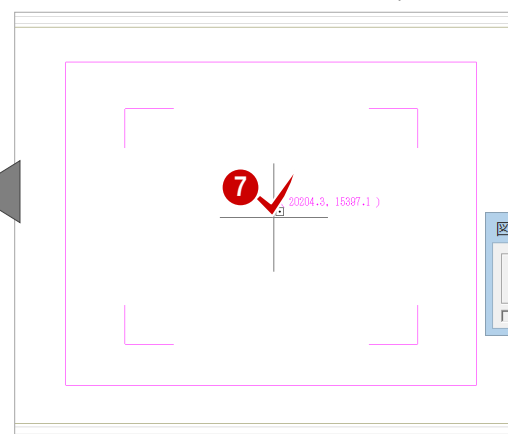


図面にタイトルを配置したいときは、[図面名] に名称を入力して、[タイトル] [縮尺] にチェックを付けます。



下・左側の通り芯間に芯間寸法が作成されます。

⇒ P.44 参照



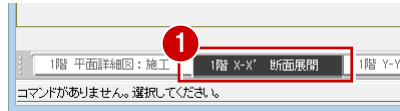
4-5 図面の作成（断面展開図）

P.45 で作成した 2 つの断面展開図の図面を作成してみましょう。

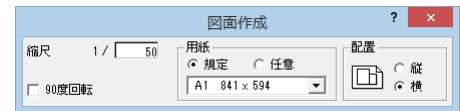
ここでは、X-X' と Y-Y' 断面展開図を同じ汎用図面に配置します（図面の合成）。

X-X' 断面展開図を作成する

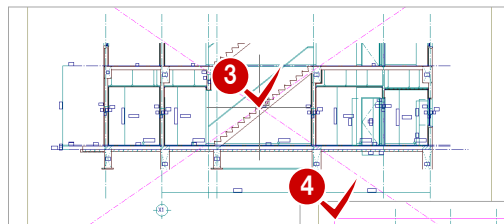
① [1階 X-X' 断面展開図] タブをクリックします。



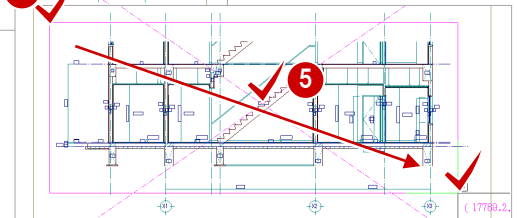
② [図面] をクリックします。



③ 用紙範囲の中心をクリックします。

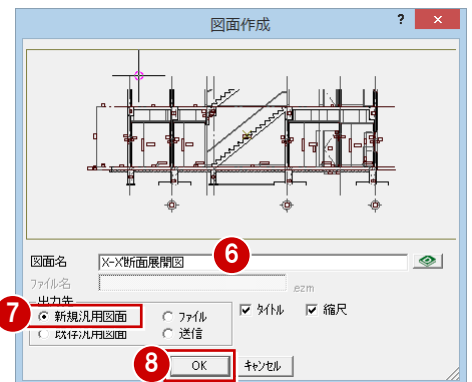


④ 作図領域を指定します。



⑤ 図面を配置するときの基準点をクリックします。

⑥ [図面名] に図面名称を入力します。

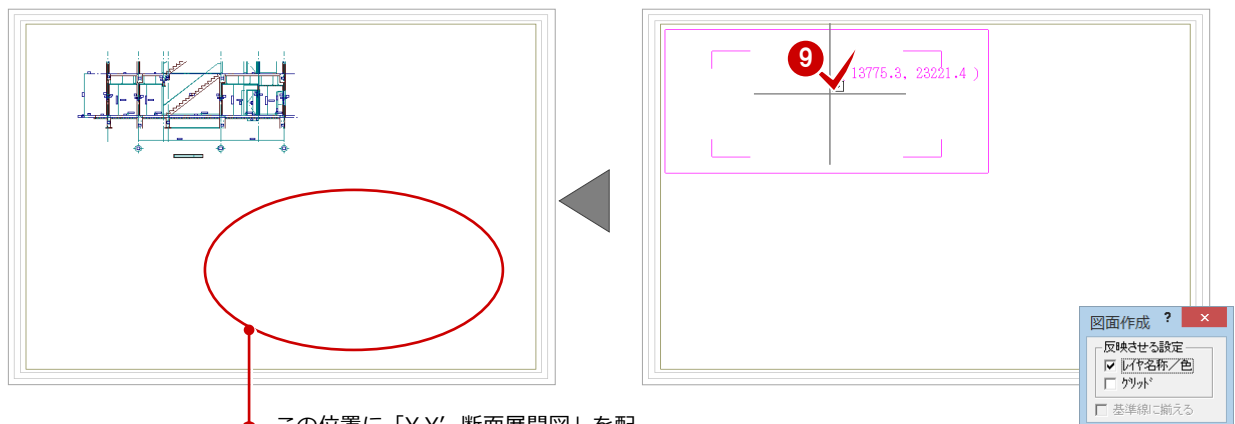


⑦ 出力先が [新規汎用図面] になっていることを確認します。

⑧ [OK] をクリックします。

新しい汎用図面のウィンドウが開きます。

⑨ 図面の配置位置をクリックします。



この位置に「Y-Y' 断面展開図」を配置することを考慮して、断面展開図を配置しましょう。

Y-Y' 断面展開図を作成する

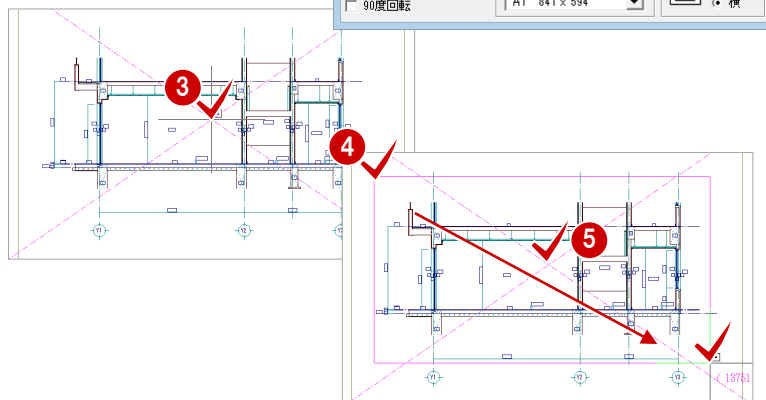
① [1階 Y-Y' 断面展開図] タブをクリックします。



② [図面] をクリックします。



③ 用紙範囲の中心をクリックします。



④ 作図領域を指定します。

⑤ 図面を配置するときの基準点をクリックします。

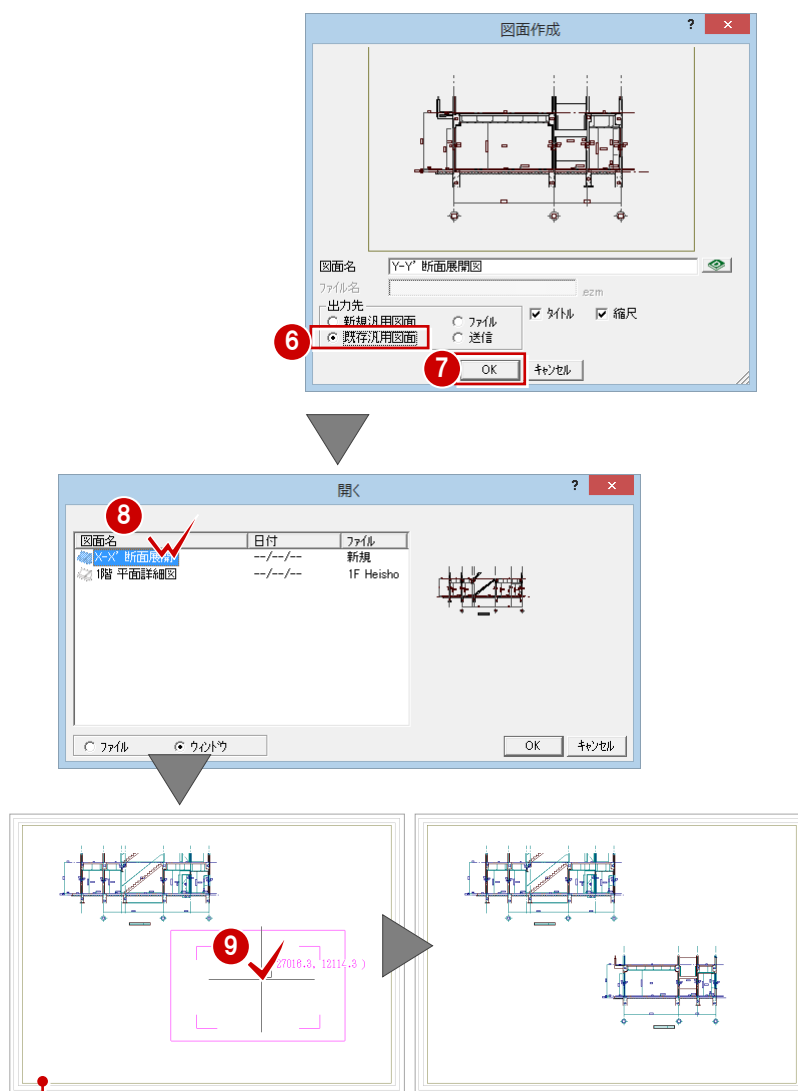
⑥ [出力先] で [既存汎用図面] にチェックを入れます。

⑦ [OK] をクリックします。
[開く] ダイアログが開きます。

⑧ 図面一覧から「X-X' 断面展開図」をダブルクリックします。

汎用図面「X-X' 断面展開図」が開きます。

⑨ 図面の配置位置をクリックします。



● 通り芯を揃えて平面詳細図と断面展開図を 1 枚の図面に合成することもできます。
詳しくは、「RC 躯体図 Q&A 編」の「Q6 見上図と断面図を合成するには」を参照してください。

4 図面を作成する

図面名を変更する

「X-X' 断面展開図」と「Y-Y' 断面展開図」を配置した汎用図面の図面名が「X-X' 断面展開図」になっているため、「X-X'・Y-Y' 断面展開図」に変更します。

- 1 [ファイル] メニューから [図面名変更] を選びます。
[図面名変更] ダイアログが開きます。
- 2 [図面名] を「X-X'・Y-Y' 断面展開図」に変更します。
- 3 [OK] をクリックします。
タブに表示される図面名が変更されます。



4-6 図面の編集

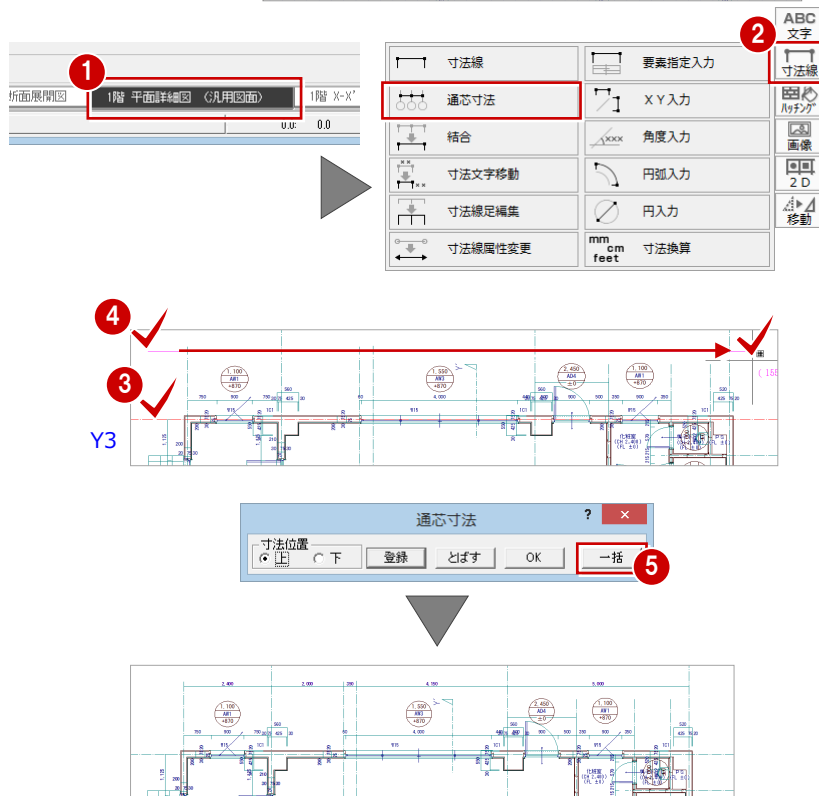
汎用機能を使って図面を編集したり、図面枠を配置したりして、作成した図面を仕上げましょう。

寸法線を追加する

芯間寸法を追加する

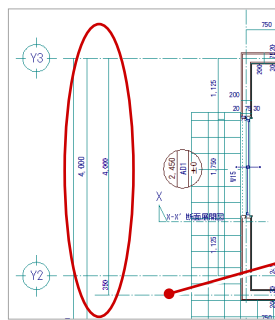
上側・右側に芯間寸法を追加しましょう。
また、左側には、風除室の作図芯を伸ばしてから芯間寸法を追加します。

- 1 [1階 平面詳細図] タブをクリックします。
- 2 [寸法線] メニューから [通芯寸法] を選びます。
- 3 寸法線と平行な線分をクリックします。
この線分と平行に寸法線を作成します。
- 4 通り芯・作図芯と交差するように、寸法位置の始点 ⇒ 終点をクリックします。
[通芯寸法] ダイアログが開きます。
- 5 [一括] をクリックします。
芯間寸法がまとめて入力されます。

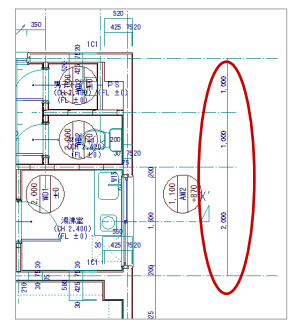
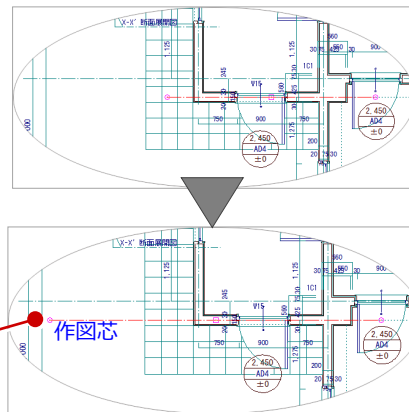


- 6 同様な操作で、右側・左側の必要な箇所に芯間寸法を追加します。

左側においては、右図のようにトラックで「風除室」部分の作図芯を伸ばしてから芯間寸法を追加します。



【左側】



【右側】

先に、作図芯を伸ばしておきます。

その他の寸法を追加する

ここでは、湯沸室部分の芯間寸法とポーチ部分の寸法線を追加します。

- 1 [寸法線] メニューから [寸法線] を選びます。

- 2 [寸法線] ダイアログで [線間] をオンにして、[マウス指定] にチェックを入れます。

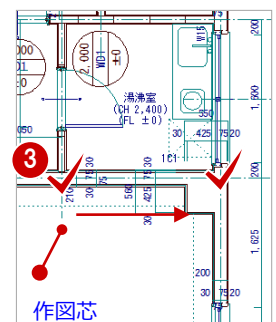
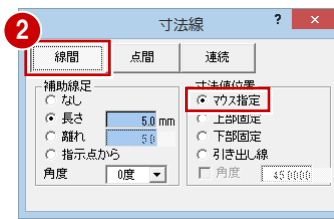
- 3 寸法線の始点 ⇒ 終点をクリックします。

ここでは、作図芯と X3 通り芯をクリックします。

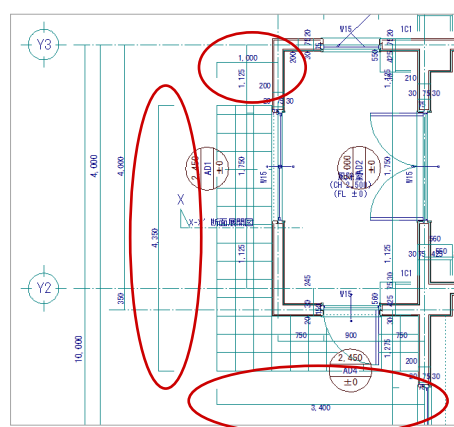
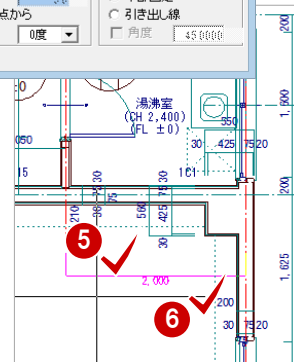
- 4 ラバーバンドを確認しながら、寸法線の位置をクリックします。

- 5 ラバーバンドを確認しながら、寸法文字の位置をクリックします。

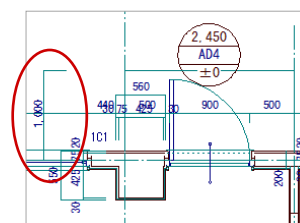
- 6 同様な操作で、右図に示す位置に寸法線を追加します。



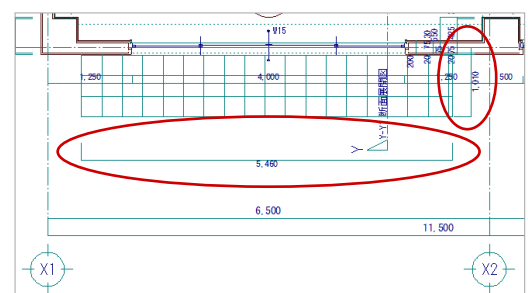
X3



【左側】



【上側】

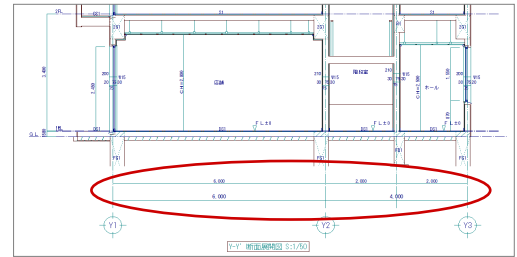
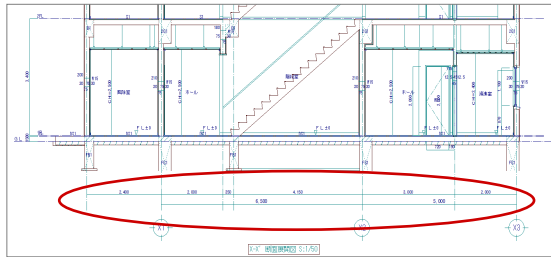


【下側】

4 図面を作成する

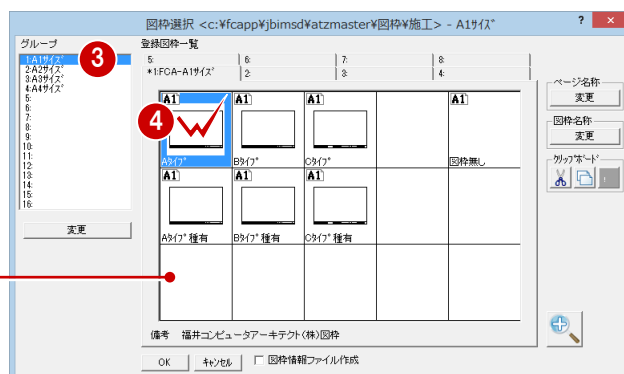
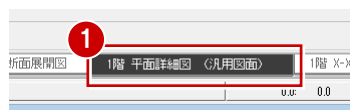
断面展開図に寸法を追加する

「X-X'・Y-Y' 断面展開図」にも芯間寸法を追加します。



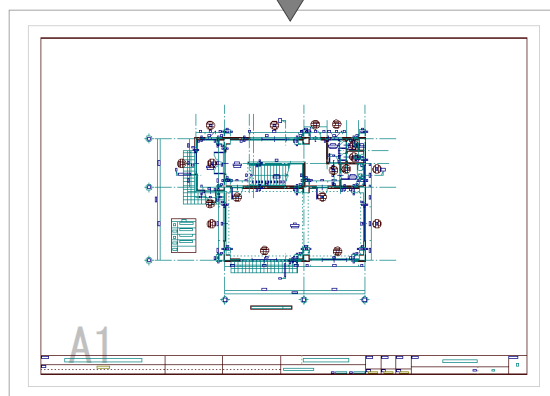
図面枠を配置する

- 1 [1階 平面詳細図] タブをクリックします。
- 2 [図枠] をクリックします。
[図枠選択] ダイアログが開きます。
- 3 [グループ] の「1:A1 サイズ」が選択されていることを確認します。
- 4 一覧から「Aタイプ」をダブルクリックします。
「1階 躯体見上図」に図面枠が配置されます。



他の CAD で使用していた図面枠を利用して、新しく図面枠を登録することもできます。
詳しくは「RC 躯体図 Q&A 編」の「Q5 オリジナルの図面枠を作成するには」を参照してください。

- 5 同様な操作で、X-X'・Y-Y' 断面展開図にも図面枠を配置します。



4-7 データの保存

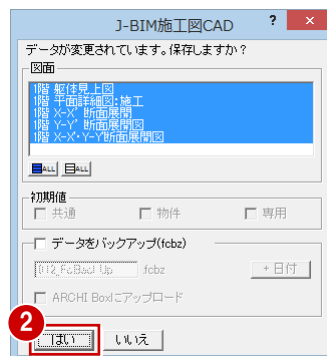
印刷の前に、ここまでの変更内容を保存しておきましょう。

- ① [上書き保存] をクリックします。



- ② [はい] をクリックします。

続けて [名前を付けて保存] ダイアログが開きます。



- ③ [ファイル名] を入力します。

X-X'・Y-Y' 断面展開図・・・「1FDanmen」

- ④ [OK] をクリックします。



ファイル名に入力できる文字数は、半角で 30 文字までです。

- ⑤ 続けて [名前を付けて保存] ダイアログが開きますので、残りの図面もファイル名を付けて保存しましょう。

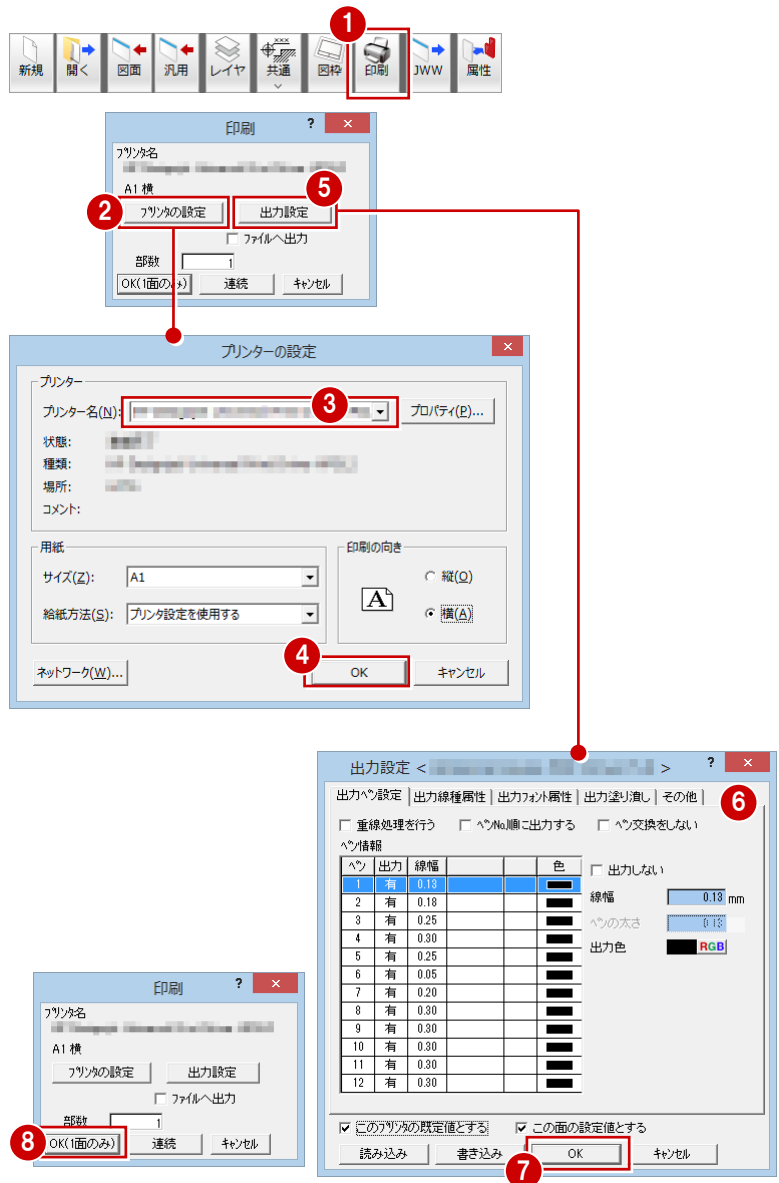
1 階 平面詳細図・・・「1FHeisho」



4-8 図面の印刷

作成した図面を印刷しましょう。

- ① [印刷] をクリックします。
[印刷] ダイアログが開きます。
- ② [プリンタの設定] をクリックします。
[プリンターの設定] ダイアログが開きます。
- ③ 使用するプリンタ、用紙のサイズ、印刷の向きなどを確認します。
- ④ [OK] をクリックします。
[印刷] ダイアログに戻ります。
- ⑤ [出力設定] をクリックします。
[出力設定] ダイアログが開きます。
- ⑥ 印刷するときの線幅や色などを確認します。
- ⑦ [OK] をクリックします。
[印刷] ダイアログに戻ります。
- ⑧ [OK (1面のみ)] をクリックすると、印刷が始まります。



補足 複数の図面を連続印刷するには

複数の図面をまとめて印刷するには、[印刷] ダイアログの [プリンタの設定] で使用するプリンタや用紙サイズ、印刷の向きなどを設定した後、[連続] をクリックします。[図面一覧] で印刷したい図面を複数選択して [OK] をクリックすると、印刷が始まります。

